洋野町埋蔵文化財調査報告書第７集

南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査

2020.3

岩手県洋野町教育委員会

洋野町埋蔵文化財調査報告書第７集
南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書
岩手県洋野町教育委員会

南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査

序

洋野町は岩手県の最北端に位置し、北は青森県三戸郡階上町、西は軽米町、南は久慈市、東は太平洋に接し、海と高原に囲まれた自然豊かな町です。平成18年1月1日、旧種市町と旧大野村が合併して洋野町が誕生しました。

町内には現在233箇所の遺跡が登録されています。先人の残したこれらの文化遺産を保護し、保存していくことは私たち町民に課せられた重大な責務であります。

本報告書は、風力発電事業に伴う南玉川Ⅰ遺跡及び小田ノ沢Ⅱ遺跡の埋蔵文化財調査の報告をまとめたものです。この調査の結果が今後この地域の歴史を解明する上で、いささかでもお役に立てれば幸いです。また、本書が関係者はもちろん、広く町民の方々に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護に多少なりとも寄与されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にあたり、多大なご助言ご協力をいただきました関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

令和2年3月

洋野町教育委員会
教育長　林　剛敏

例　言

1. 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市11地割地内に所在する南玉川Ⅰ遺跡、及び種市第3地割地内に所在する小田ノ沢Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
2. 本遺跡の調査は、風力発電所建設に伴う事前の緊急発掘調査であり、調査に係る費用は事業主にご負担いただいた。事業主は次のとおりである。
   日本風力開発株式会社
3. 遺跡の岩手県遺跡台帳番号は下記のとおりである。
   南玉川Ⅰ遺跡：IF68-0395
   小田ノ沢Ⅱ遺跡：IF78-1351
4. 本遺跡の調査は、洋野町教育委員会が主体として実施したもので、株式会社アーキジオが調査支援業務を行った。
   調査責任者：千田政博（洋野町教育委員会）
   調査員：田中寿明　調査補助員：山田千種　（株式会社アーキジオ）
5. 本書の編集・構成は田中が行い、執筆については第Ⅰ・Ⅱ章を千田、南玉川Ⅰ遺跡第Ⅳ章を株式会社 パレオ・ラボ、その他を田中が担当した。
6. 外部委託業務は下記のとおりである。
   試料分析：株式会社 パレオ・ラボ
   基準点測量：株式会社北山測量設計
7. 本調査及び報告書作成等に際して、下記の方々からご指導、ご教示、ご協力を賜った。記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）
   長尾正義、成田滋彦、福田友之、古屋敷則雄
8. 発掘調査作業及び報告書作成作業において、下記の方々にご協力いただいた。（五十音順、敬称略）
   相野美香、久慈道美千子、黒坂繁幸、黒坂誠吉、舘野隆、續石貴子、畑川三重子、村田千鶴、横山香、
   有限会社薩摩建設
9. 第Ⅱ章「洋野町内の遺跡」については、平成31年（2019年）4月時点での「岩手県遺跡台帳」に基づいたものに加筆・修正したものである。
10. 土層の観察は「新版標準土色帖」（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。
11. 引用・参考文献については文末に収めた。
12. 調査で得られた出土遺物・諸記録等については、洋野町教育委員会で保管・管理している。

目　次

序
例　言
目　次
凡　例

Ⅰ．調査に至る経過…… 2
Ⅱ．洋野町内の遺跡…… 3

南玉川Ⅰ遺跡
Ⅰ．遺跡の概要…… 20
Ⅱ．調査の概要…… 20
Ⅲ．遺跡の土層序…… 21
Ⅳ．深掘土層のテフラ分析…… 23
　1．試料と方法 …… 23
　2．結果 …… 23
　3．テフラの対比 …… 25
Ⅴ．調査の成果…… 28
　1．検出された遺構について …… 28
　2．まとめ …… 33

小田ノ沢Ⅱ遺跡
Ⅰ．遺跡の概要…… 44
Ⅱ．調査の概要…… 44
Ⅲ．遺跡の土層序…… 45
Ⅳ．調査の成果…… 47
　1．検出された遺構について …… 47
　2．まとめ …… 48

報告書抄録

表

第１表　町内の遺跡一覧（1）…… 10
第１表　町内の遺跡一覧（2）…… 11
第１表　町内の遺跡一覧（3）…… 12
第１表　町内の遺跡一覧（4）…… 13
第１表　町内の遺跡一覧（5）…… 14
第１表　町内の遺跡一覧（6）…… 15

南玉川Ⅰ遺跡

第１表　テフラ試料の詳細…… 23
第２表　テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果…… 24
第３表　４φ篩残渣中の鉱物組成…… 24

図　　版

第１図　遺跡位置図…… 1
第２図　町内遺跡位置図…… 9

南玉川Ⅰ遺跡

第１図　遺跡範囲図…… 19
第２図　深掘土層序…… 22
第３図　深掘南東壁面試料の鉱物組成・火山ガラスの分布図…… 24
第４図　各試料の火山ガラスの屈折率測定結果…… 25
第５図　遺構配置図…… 27
第６図　土坑ＳＫ１・ＳＫ２…… 28
第７図　溝状土坑ＴＰ１・ＴＰ２…… 30
第８図　溝状土坑ＴＰ３・ＴＰ４…… 31
第９図　ピットＳＰ１・ＳＰ２…… 32

小田ノ沢Ⅱ遺跡

第１図　遺跡範囲図…… 43
第２図　深掘土層序…… 45
第３図　遺構配置図…… 46
第４図　溝状土坑ＴＰ１…… 47

写真図版

南玉川Ⅰ遺跡

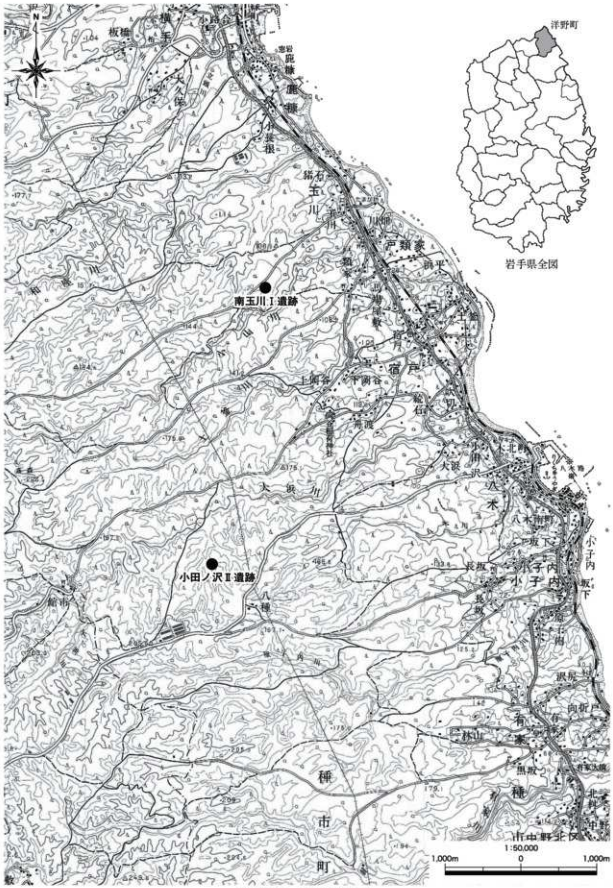
写真図版１　４φ残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真…… 26
写真図版２　遺跡遠景・近景…… 34
写真図版３　調査区全景（１）…… 35
写真図版４　調査区全景（２）…… 36
写真図版５　調査区全景（３）…… 37
写真図版６　深掘土層序・土坑SK1・SK2…… 38
写真図版７　溝状土坑 TP1 ～ TP3 …… 39
写真図版８　溝状土坑 TP4・ピット SP1・SP2…… 40

小田ノ沢Ⅱ遺跡

写真図版１　遺跡遠景・近景…… 49
写真図版２　調査区全景…… 50
写真図版３　調査区近景…… 51
写真図版４　深掘土層序・溝状土坑ＴＰ１…… 52

凡　例

1. 遺構図版の縮尺は、すべて1/60で統一した。
2. 本書で使用する遺構表示記号は、下記のとおりである。
   ＴＰ：溝状土坑　ＳＫ：土坑　ＳＰ：ピット
3. 深掘土層序にはローマ数字を、遺構内の層位には算用数字を用いた。
4. 本報告書に収載した遺構配置図、遺構実測図等に付した方位は、国家座標第Ｘ系による座標北を示す。
5. 第１図 遺跡位置図は国土地理院発行の50,000分の１の地形図、第２図 町内遺跡位置図には、50,000分の１洋野町管内図を複写して使用した。
6. 南玉川Ⅰ遺跡第１図及び小田ノ沢Ⅱ遺跡第１図の遺跡範囲図は国土地理院発行の50,000分の１の地形図を複写して使用した。



第１図　遺跡位置図

Ⅰ．調査に至る経過

本発掘調査は、日本風力開発株式会社による風力発電事業に伴い実施されたものである。事業計画では洋野町内の31箇所に風車を建設するもので、平成30年9月6日、事業者から洋野町教育委員会教育長あてに事業地の埋蔵文化財包蔵地の所在について照会があり、事業地内の掘削面積や建設数を踏まえ、分布調査が必要であるとの回答をした。その後同年10月5日、分布調査の依頼書が提出され、事業地を確認したところ、地形等の状況から全ての建設予定地について埋蔵文化財確認試掘調査が必要であるとの回答をした。

平成31年3月29日、事業者より風車建設予定地の風車番号3号機、7号機、11号機、16号機、17号機の5基分を第1次試掘調査として、試掘調査依頼書が洋野町教育委員会教育長あてに提出され、平成31年4月22日～令和元年6月18日まで、各風車建設工事個所の7,000㎡を対象に試掘調査を実施した。その後、令和元年7月18日、第2次試掘調査として風車番号18号機、20号機、23号機、28号機、30号機の5基分の試掘調査依頼書が提出され、令和元年7月26日～8月23日まで試掘調査を実施した。調査の結果、3号機、7号機、11号機、16号機、18号機、23号機の風車建設予定地から遺構、遺物が検出された。

調査後、事業者から風力発電所建設の前に、7号機並びに23号機の建設地に風況観測塔を設置したいとの協議があった。7号機の建設予定地は南玉川Ⅰ遺跡、23号機の建設予定地は小田ノ沢Ⅱ遺跡として、令和元年8月13日付け、教生第520号にて岩手県教育委員会より新規登録の通知を受けていたため、令和元年8月29日、事業者より両遺跡内の工事について、文化財保護法第93条第1項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の届出に係る書類が提出された。同年8月30日、教生第3-192号にて岩手県教育委員会教育長より発掘調査を実施する旨の通知がされた。同日、事業者から提出された埋蔵文化財発掘調査の依頼書を受理、令和元年9月24日より南玉川Ⅰ遺跡、小田ノ沢Ⅱ遺跡の本発掘調査に着手し、同年10月23日まで実施した。

Ⅱ．洋野町内の遺跡

洋野町内に所在する遺跡は、令和２年（2020）１月現在、岩手県遺跡台帳に233遺跡が登録されている。平成23年（2011）以降、三陸沿岸道路建設や再生可能エネルギー事業等に係る試掘調査により新規発見の遺跡が増加している。

町内遺跡詳細分布調査は、旧種市町が行った平成16年度（2004）の角の浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区の分布調査のみである。旧大野村分についても実施しておらず、町内には未発見の遺跡が多く所在するものと想定される。町内の発掘調査は岩手大学草間俊一教授により昭和30年（1955）から昭和36年（1961）にかけて遺跡の踏査と発掘調査が行われたのが最初であるが、その後平成25年度（2013）までの調査事例は数件にとどまっていた。平成26年度(2014)以降、三陸沿岸道路建設等に伴う本発掘調査により調査事例が急激に増加したものの、町内に所在する遺跡の様相については不明な部分が多い。

旧石器時代の遺跡として、中野地区の尺沢遺跡（222）が登録されている。同遺跡は令和元年度、久慈地区汚泥再生処理センター建設工事に係る洋野町教育委員会による発掘調査で、ナイフ形石器が出土している。その他にも「角川日本地名大辞典３」には、“鉄山遺跡。”有家遺跡。と未登録遺跡の記載があり、いずれも高館火山灰層最上部から旧石器が発見されたとある。今後の埋蔵文化財調査において、高館火山灰層については注視していかなければならない。

縄文時代の遺跡数は、全体の７割以上を占める。草創期の遺跡として板橋Ⅱ遺跡（221）がある。同遺跡は三陸沿岸道路建設事業に伴い、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下岩手県埋蔵文化財センターに略称する）による令和元年度（2019）の調査において、爪形文土器が出土している。爪形文がＶ字状に並ぶことから、黄櫨遺跡（八戸市南郷区）で出土した爪形文土器に近いものとみられる。

早期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、宿戸遺跡（199）、中野城内遺跡（203）、尺沢遺跡（222）などがある。旧石器が出土した尺沢遺跡では、日計式の押型文土器が出土し、同時期とみられる石器も出土している。また、岩手県埋蔵文化財センターによる平成６年度（1994）のゴッソー遺跡発掘調査では日計式土器、魚骨回転文土器等が出土している。

貝殻文の土器が出土した事例は古く、昭和36年（1961）の草間教授による大宮遺跡の発掘調査時に出土したものが、岩手県で初めて復元された貝殻文の尖底土器と報告がある。中野城内遺跡では、三陸沿岸道路建設事業に伴い岩手県埋蔵文化財センターによる平成29年度（2017）の調査で、早期とみられる土坑、白浜式土器が出土している。

前期の遺跡として、ゴッソー遺跡（20）、上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）、小田ノ沢Ⅰ遺跡（200）などがある。ゴッソー遺跡は早期～晩期の縄文土器が出土しているが、前期初頭の遺物量が多く、特に平成６年度（1994）の岩手県埋蔵文化財センターによる本発掘調査で出土したコンパス文土器や押型文土器は岩手県で初めての出土とみられる。同遺跡も昭和36年（1961）に草間教授により発掘調査された遺跡で、縄文時代前期の土器を中心に縄文時代早期の土器、弥生時代の土器、土師器片、石器を採集したとの報告がある。なお、上のマッカ遺跡は昭和36年（1961）草間教授の調査により、貝塚が存在する可能性が指摘されている。

中期の遺跡として、千歳平遺跡（4）、ゴッソー遺跡（20）上のマッカ遺跡（43）、北ノ沢Ⅰ遺跡（163）などがある。平成27年度（2015）洋野町教育委員会によるゴッソー遺跡の本発掘調査では、中期初頭の竪穴住居跡が１軒発見され、三重の入れ子にした土器埋設炉と単体の土器埋設炉が並列した状態で出土した。その入れ子の土器埋設炉の中からヒエの胚乳が検出されている。

後期の遺跡として、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、下向Ⅰ遺跡（202）、続石遺跡（213）、サンニヤⅢ遺跡（218）などがある。

町内の縄文時代の遺跡で、後期前葉に位置付けられる遺跡が一番多く、その中でも溝状土坑（陥し穴状遺構）と後期前葉の土器が出土する遺跡が多数を占める。平内Ⅱ遺跡は洋野町教育委員会により、平成 11 年度（1999）から平成 25 年度（2013）の間、延べ 6 箇年発掘調査が行われた。屋外炉、集石、焼土遺構、溝状土坑が検出されており、出土した土器は主に後期前葉に位置付けられる。上水沢Ⅱ遺跡は平成 12 年度（2000）に岩手県埋蔵文化財センターにより本発掘調査が行われ、後期前葉から後葉の竪穴住居跡が 11 軒発見された。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴い発掘調査が行われた遺跡で、後期に属する竪穴住居跡が検出された遺跡は、上のマッカ遺跡（43）、西平内Ⅰ遺跡（185）、南川尻遺跡（194）、サンニヤⅠ遺跡（195）、北鹿糠遺跡（196）、鹿糠浜Ⅱ遺跡（197）、小田ノ沢Ⅰ遺跡（200）、南鹿糠Ⅰ遺跡（206）、板橋Ⅱ遺跡（221）があり、南川尻遺跡は後葉、それ以外は前葉のものである。

晩期の遺跡として、たけの子遺跡（21）、大平遺跡（32）、ニサクドウ遺跡（58）、戸類家遺跡（61）、田ノ沢遺跡（63）などがある。特にたけの子遺跡は町内で晩期を代表する遺跡である。昭和 36 年度、岩手県遺跡台帳作成調査において、太平洋戦争中、開墾の際には多数の土器が出土していたが、その後植林されており包含層は良好で、重要な遺跡であるとの報告がある。洋野町立種市歴史民俗資料館収蔵の考古資料の多くはこの遺跡からの出土である。戸類家遺跡は昭和 32 年（1957）に慶応義塾大学名誉教授江坂輝彌氏による発掘調査が行われており、土器、石器の他に土偶が出土し、現在、慶応義塾大学考古学研究室に収蔵されている。また、昭和 7 年（1932）には岩手県史跡名勝天然記念物調査会委員であった小田島禄郎氏が旧種市町を訪れており、その時に採集された田ノ沢遺跡、八木目塚の出土遺物が岩手県立博物館に収蔵されている。

なお、貝塚遺跡としてホックリ貝塚（33）、八木貝塚（37）、小子内貝塚（40）、黒マッカ貝塚（41）がある。ホックリ貝塚からは当時、岩手県で初めて縄文時代の製塩土器が出土しており、久慈市の大芦Ⅰ遺跡で平成 9 年（1997）に発見されるまで、製塩土器が発見された県内唯一の遺跡であった。海岸付近に位置する同貝塚は、昭和 24 年（1949）に行われた造船所の建設工事によりほぼ壊滅したとみられるが、製塩遺跡であった可能性がある。洋野町の故玉沢重作氏により製塩土器が発見され、その後、岡山大学名誉教授近藤義郎氏が、昭和 35 年（1960）同遺跡を調査し、土器の検討を行っている。このほか縄文時代の製塩土器は、ゴッソー遺跡の平成 12 年度（2000）岩手県埋蔵文化財センターによる本発掘調査でコンテナ 1 箱分出土している。洋野町立種市歴史民俗資料館には、たけの子遺跡で採集された縄文時代の製塩土器片が多数収蔵されている。また、平成 16 年度（2004）の種市町内遺跡詳細分布調査において、南平内Ⅰ遺跡（182）より製塩土器片が縄文晩期の土器とともに発見された。同遺跡は現在の汀線まで約 150m の距離であるが、時代によっては汀線付近であった可能性もある。遺跡の残存状況も良くないため詳細は不明であるが、位置から推測すると製塩を行った遺跡であることも考えられる。

弥生時代の遺跡として、大平遺跡（32）、大宮Ⅱ遺跡（47）、大宮Ⅰ遺跡（48）、平内Ⅱ遺跡（65）、上水沢Ⅱ遺跡（92）などがある。先述した平内Ⅱ遺跡では、平成 25 年度の調査で弥生時代前期後葉の竪穴住居跡が 2 軒検出されている。上水沢Ⅱ遺跡では弥生時代後期の竪穴住居跡が 1 軒検出され、土器がコンテナ約 1 箱分出土している。なお、西平内Ⅰ遺跡では、沈線間に交互刺突文を有する弥生時代後期の土器片が出土している。

古墳時代の遺跡については、三陸沿岸道路建設に伴う南鹿糠Ⅰ遺跡（206）の発掘調査において、7 世紀の竪穴住居跡が検出されている。

また、袖山遺跡（38）においては、剣形の石製模造品が表面採集されている。同品も故玉沢重作氏により発見されたもので、長さ 4.2cm、最大幅 1.5cm、厚さは最大で 4mm、重さは 3.6g、石材は北上山地が産出地の蛇紋岩で、色調は暗緑灰色である。茎の表現が簡略化された二等辺三角形に三角形を付加した形状で、全体が丁寧に研磨されて、頭部には垂下孔とみられる径 2mm の穿孔があり、表面は鎬が表現されている。形状から 5 世紀後葉より古い可能性がある。袖山遺跡は標高約 50m の海岸段丘上に立地し、現状は山林などで、主な時代は縄文時代であるが、石製模造品の他には当該期の遺物は発見されていない。昭和 28 年（1953）に東北大学伊東信雄教授が東

北地方の石製模造品の集成を発表した「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」により同品が紹介され知られるようになった。この石製模造品も、昭和58年（1983）に一戸町馬場平遺跡から発見されるまで、県内唯一のものであった。

奈良・平安時代の遺跡として、城内遺跡（11）、ニサクドウ遺跡（58）、八森遺跡（73）、鹿穐浜Ⅱ遺跡（197）、サンニヤⅡ遺跡（205）、などがある。サンニヤⅡ遺跡では、三陸沿岸道路事業に伴い平成26年度（2014）・27年度（2015）の岩手県教育委員会による発掘調査で、8世紀後半から9世紀前半の時期の竪穴住居跡が3軒検出されている。また、国道45号線種市登坂車線整備事業に伴い、岩手県埋蔵文化財センターにより平成28年度(2016)に調査が行われた八森遺跡でも8世紀代の竪穴住居跡が1軒検出されている。城内遺跡からは8世紀代と考えられる土師器の長胴甕、球胴甕、甑、土師器坏が出土している。また、草間教授の報告書によるとニサクドウ遺跡で土製支脚、土師器坏が出土している。

なお、三陸沿岸道路建設に伴う上のマッカ遺跡（43）の発掘調査において、土師器と製塩土器を伴う竪穴建物跡が検出されている。また、床面からは2基の炉跡が検出されており、土師器の年代から10世紀後半～11世紀の製塩工房とみられる。

平安時代の製塩土器は、二十一平遺跡（69）でも出土している。同遺跡は岩手県と青森県境を流れる二十一川の南側の汀線付近に位置する。海岸整地に伴う重機の掘削により遺跡の存在が明らかになり、平成15年度(2003)に新規登録された。製塩土器片、土製支脚片が多量に散布し、被熱したような円礫もみられた。現在までにコンテナで約5箱分が採集されている。遺跡の立地、発見された遺物の状況から製塩を行った可能性が高いが、保存状況は重機の掘削により一部破壊されていると考えられる。また、未登録の遺跡ではあるが、駒木野智寛氏、相原淳一氏による古津波堆積層の調査に伴い海岸付近で採集された製塩土器もある。なお、古代の製塩土器は海岸から6.2kmの舘野遺跡（207）でも採集されており、町内には縄文時代や古代の製塩土器、土製支脚を伴う遺跡が多く所在することが予想され、製塩遺跡の発見や製塩土器の資料の増加が見込まれる。

中世の遺跡として中世城館跡の分布調査が昭和59年（1984）に岩手県教育委員会により行われており、岩手県遺跡台帳には28遺跡が登録されているが、ほとんどが城主などの詳細が不明である。

種市の城内地区には種市氏の居城である種市城跡が所在する。種市氏は中世～近世初期に当地方を領有していた三戸南部氏（後の盛岡南部氏）の家臣である。『南部藩参考諸家系図』（以後系図）によれば、種市中務（実名不詳）が三戸南部氏24代晴政から種市村、蛇口村（軽米町）ならびに傍村賜り種市村に居住したとある。およそ16世紀半ば頃と推測されるが、それ以前のことは不明である。『奥南旧指録』には、三戸南部氏25代晴継の股肱の臣として中務が久慈備前らと名を連ねており、三戸南部氏の有力家臣であったとみられる。系図によると、種市中務の長男光徳は同じく中務と称した。光徳は三戸南部氏26代信直（初代盛岡藩主）から種市村ならびに傍村に600石を賜ったとある。『聞老遺事』によると、天正19年（1951）九戸政実の乱の際、信直方に属し18人の部下と鉄砲三挺、弓三張で参陣している。また、2代盛岡藩主利直の時に起きた慶長5年（1600）の岩崎合戦では、部下18人と参陣している。なお、系図には光徳の妻は根城南部氏（後の遠野南部氏）18代八戸政栄の弟新田政盛の娘であることが記されている。

その後光徳の長男孫三郎が家督を継いだ。『聞老遺事』によれば大坂夏の陣に出陣している。光徳と孫三郎父子は、初代盛岡藩主信直、2代盛岡藩主利直父子に仕え活躍した家臣であったが、孫三郎は3代盛岡藩主重直の時、罪ありということで禄を没収され、慶安2年（1649）に没している。

光徳の次男吉広は系図によれば、天正15年（1587）に初代盛岡藩主信直から閉伊口村（久慈市）を賜り住んでいたが、天正17年（1589）に蛇口村に替地を賜り、蛇口氏に姓を変えている。

岩手県遺跡台帳には、平時居住していた平城の種市城跡（16）と非常時に立てこもったとされる山城の種市城跡（17）が登録されている。平城の種市城跡はJR八戸線種市駅より西へ約9kmに所在し、平城跡は現在でも馬場屋敷、

的場、神楽屋敷など当時の名残と思われる地名が存在する。そこから南西へ約 1kmに山城の種市城跡が位置する。

天正 18 年（1590）、豊臣秀吉の朱印状により初代盛岡藩主信直が「南部内七郡」を安堵されると、八戸・九戸地方一帯は信直が直接支配することとなり、寛永 4 年（1627）に根城南部氏が伊達氏に対する備えを理由に遠野へ転封されると盛岡藩の直轄地になった。八戸には八戸城代が配置され、さらに八戸地方には八戸代官、九戸郡には久慈代官を派遣し支配にあたったようである。

寛文 4 年（1664）9 月、3 代盛岡藩主重直が跡継ぎを決めないままに死去した。同年 11 月、幕府は重直の次弟の重信と末弟の直房を呼び、盛岡藩 10 万石のうち 8 万石を重信に相続させ、残り 2 万石を直房に与え、新規に一藩をおこさせる処置を取った。寛文 5 年（1665）2 月、盛岡藩より領地の配分が行われ、八戸を居城とし、三戸郡 41 箇村、九戸郡 38 箇村、志和郡 4 箇村、都合 83 箇村が付与された。八戸藩は、各村の支配のため通制という行政区域を用い、三戸郡には八戸廻・名久井通・長苗代通、九戸郡には軽米通・久慈通、志和郡には志和の行政区を設定し、各通には代官所を配置した。種市は八戸廻、大野は久慈通に属していた。

八戸藩の主な産業は、商業、林業、漁業、製塩業、鉄産業、造船業などがあり、特に製鉄業は原料である砂鉄と燃料の薪炭材が豊富であったため盛んに行われた。製鉄に関する史料は八戸藩の藩庁の日記である目付所日記、勘定所日記、民間の史料では晴山家文書、淵沢家文書、西町屋（石橋）文書などがあり、様相を知ることができる。

製鉄の中心地は大野で、鉄山会所として日払所がおかれ、鉄山支配人が詰めて生産方を指揮した。天保 9 年（1838）には、大野の鉄山として玉川山、金取山、葛柄山、水沢山、大谷山、川井山、滝山の七山があった。晴山家文書の天保 8 年（1837）「寛政年中より拾書」は鉄山支配人の経緯が記されているが、晴山文史郎から安永 7 年（1778）に初代晴山吉三郎へ受け継がれ、その後数人の支配人を経て、享和 2 年（1802）からは飛騨の浜谷（屋）茂八郎が引き継いだ。そして、文政 6 年（1823）には、鉄山は藩営となり、石橋徳右衛門が支配人に就任して、その下支配人に二代目晴山吉三郎が就いた。さらに天保 5 年（1834）の百姓一揆後は、軽米の淵沢円右衛門が支配人を命じられ、天保 9 年（1838）からは江戸の美濃屋宗（惣）三郎（家臣名金子丈右衛門）へと移った経過が記されている。

近世の遺跡として町指定史跡の有家台場（46）がある。目付所日記によると、八戸藩では幕府から異国船警戒の命を受けて、寛政 3 年（1791）に鉄砲堅・目付御用掛を任命し、異国船の警戒に当たらせたようである。寛政 5 年（1793）の中里覚右衛門書き上げの「堅場」には「大堅」として鮫村、麦生、「小堅」として八太郎浦、湊浦、小船渡浦、有家浦、中野浦の名があげられている。藩の日記などには異国船の出没記録がいくつかあるが、目付所日記によると文政 8 年（1825）有家浦の沖合 15 里に異国船一隻が近寄り、伝馬船二隻を出して上陸の様子をみせたので、弓・鉄砲衆など計 34 人の藩士が同日に派遣されたことが記されている。その後、安政元年（1854）八太郎・湊場尻・館鼻・塩越・鮫・小船渡・有家・久慈湊に台場が築かれ、有家にも陣屋堅の役人が任命された。有家台場跡の現況は、八戸線の建設工事などで破壊されているものの、保存状況は概ね良好で、盛土遺構の一部が残存している。

当町の特徴を示す製鉄関連の遺跡は、21 箇所（旧種市町 16 箇所、旧大野村 5 箇所）登録されている。先述した七山の一つである大谷鉄山（26）は大谷地区にあり、鉄山操業により形成された集落とみられ、製鉄に関わった人々の子孫が多く居住している。製鉄関連の遺跡調査については、岩手県教育委員会の製鉄関連遺跡の詳細分布調査において、旧種市町 5 箇所、旧大野村 35 箇所の遺跡の所在を確認している。また、元野田村教育長、田村栄一郎氏によるたたら遺跡の踏査によると、旧種市町は鉄山跡 12 箇所の他、密銭場跡や鍛冶場跡など 15 箇所、旧大野村については製鉄関連の遺跡 42 箇所と鍛冶場跡を調査した結果の報告（1987『みちのくの砂鉄いまいずこ』）がある。鉄滓が採集される遺跡が少なくとも 60 箇所以上にのぼり、未発見のものも含めると相当数になると考えられる。

なお、三陸沿岸道路建設事業に伴う発掘調査において南八木遺跡（201）で古代～中世の製鉄関連の遺跡が発

見された。少なからず近世以前のものも所在することが予想されるが、町内の製鉄関連遺跡を踏査された佐々木清文氏によるとほとんどが近世のもので、それ以前のものは所在しても少数であろうとのご教示をいただいている。今後製鉄関連の詳細な町内全域の分布調査を行い、製鉄関連遺跡分布図の作成、遺跡の登録作業が必要である。

製鉄以外の金・銀・銅・鉛鉱山のいわゆる非鉄鉱業については、八戸藩の日記類に僅かにみられるが、盛岡藩領に比べ八戸藩領内には大きな金山はなく、小規模な金山がいくつかあるのみとみられる。梅内家文書の慶安2年（1649）の「砂金採取運上金請取状」によると、沢尻、雪畑、小手沢、野そうけ山に金山があったことが記されている。岩手県遺跡台帳には金山跡として、小手野沢金山（14）、ノソウケ金山（23）の2遺跡が登録されている。

＜引用・参考文献＞

伊東信雄　1953「東北地方に於ける石製模造品の分布とその意義」『歴史第6輯』東北史学会

草間俊一　1963『種市の歴史（原始－中世）種市町誌遺跡の調査報告』種市町役場

角川書店　1985『角川　日本地名大辞典3岩手県』

岩手県教育委員会　1986『岩手県中世城館分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集

田村栄一郎　1987『みちのくの砂鉄いまいずこ』

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

1996『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集

岩手県教育委員会　1998『岩手の貝塚』岩手県文化財調査報告書第102集

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集

岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所・（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

2002『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集

岩手県種市町教育委員会　2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第1集

岩手県種市町教育委員会　2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第2集

岩手県教育委員会　2006『岩手の製鉄遺跡』岩手県文化財調査報告書第122集

洋野町　2006『大野村誌第二巻史料編1』大野村誌編さん委員会

洋野町　2006『種市町史第六巻通史編（上）』種市町史編さん委員会

岩手県洋野町教育委員会　2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集

岩手県洋野町教育委員会　2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第2集

（公財）岩手県文化振興事業団　2015『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡　下向遺跡　沼袋Ⅱ遺跡　沼袋Ⅲ遺跡

八幡沖遺跡 ほか調査概報（39遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集

岩手県教育委員会　2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第146集

（公財）岩手県文化振興事業団　2016『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡　房の沢Ⅳ遺跡　白石遺跡

ほか調査概報（33遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集

岩手県洋野町教育委員会　2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

岩手県教育委員会　2017『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第149集

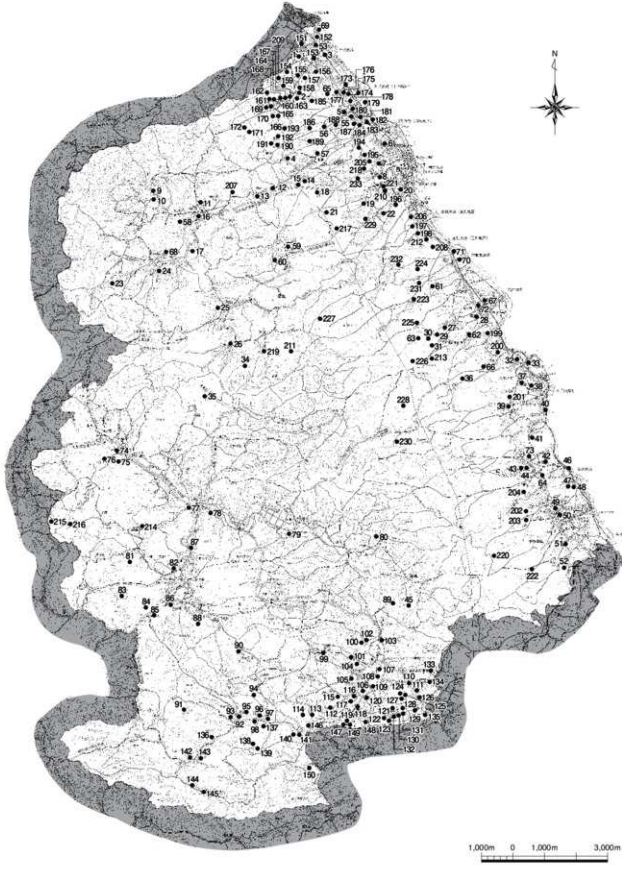
交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団

2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

（公財）岩手県文化振興事業団　2017『平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡・栃洞Ⅳ遺跡・八森遺跡

ほか調査概報（28遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集

岩手県教育委員会　2018『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成 28 年度復興関係）』岩手県文化財調査報告書第 152 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 686 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 687 集
（公財）岩手県文化振興事業団　2018『平成 29 年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ・Ⅱ遺跡 和野新祭神社遺跡 北野Ⅻ遺跡
木戸場遺跡 中野城内遺跡 沼里遺跡 根井沢穴田Ⅳ遺跡 耳取Ⅰ遺跡 千厩城遺跡　ほか調査概報（23 遺跡）』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 692 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『南鹿糠Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 697 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 698 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 699 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『鹿糠浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 702 集
国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『南八木遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 703 集



第２図　町内遺跡位置図

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
1	IF37-1386	角浜	かどのはま	標市第42地割	縄文	散布地	縄文土器	別記№4、範囲変更（平成23年度）
2	IF37-2396	伝吉Ⅰ	でんきちいち	標市第43地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（早・前・後期）、剥片石器、礫石器、土師器等	別記№4、伝吉遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）範囲変更（平成25年度）
3	IF38-1086	角川目Ⅰ	かどかわめいち	標市第39地割	縄文	散布地	縄文土器（前・中・後期）、石斧、敲石、礫器	別記№4、鮫鴨森（アイヌ森）遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）
4	IF47-2334	千歳平	せんじきだいら	標市第48地割	縄文	集落跡	縄文土器（前・中・後期）、石棒、剥片	
5	IF48-0170	平内Ⅰ	ひらないいち	標市第34地割	縄文	散布地	縄文土器（前・中期）、剥片	別記№4、平内遺跡から名称・範囲変更（平成23年度）
6	IF48-1276	南館	みなみだて	標市第28地割	中世	城館跡	堀跡（破壊）	昭和59年度調査、八幡館より名称変更（平成23年度）
7	IF48-2234	横手	よこて	標市第21地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（晩期）、土師器	範囲変更（平成23年度）
8	IF48-2283	トチの木	とちのき	標市第24地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）	
9	IF56-0330	荒巻	あらまき	標市第59地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器（中期）、弥生土器	
10	IF56-0370	八幡館（八幡船鬼館）	はちまんどうだて	標市第61地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡	昭和59年度調査、八幡館より名称変更（平成23年度）
11	IF57-0086	城内	じょうない	標市第56地割	縄文、古代	集落跡	土師器長胴甕、土師器壷	昭和59年度調査
12	IF57-0229	荒屋敷館（船鬼館）	あらやしきだて	標市第50地割	中世	城館跡	堀跡（破壊）	昭和59年度調査
13	IF57-0264	屋野館	だてのだて	標市第50地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡、竪穴	昭和59年度調査
14	IF57-0309	小手野沢金山	こてのさわきんざん	標市第51地割	近世	砂金採取跡	石垣	小手野山金山より名称変更（平成13年度）
15	IF57-0317	土鍋館	どなべだて	標市第51地割	中世	城館跡	屋敷跡、採掘跡	昭和59年度調査
16	IF57-1023	標市城（平城）	たないちじょう	標市第60地割	中世	城館跡	堀跡	昭和59年度調査
17	IF57-2033	標市城（山城）	たないちじょう	標市第60地割	中世	城館跡	堀跡、平場	
18	IF58-0034	小手野沢館	こてのさわだて	標市第51地割	中世	城館跡	堀跡、平場	昭和59年度調査
19	IF58-0169	板鍋館	いたなべだて	標市第21地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡	昭和59年度調査
20	IF58-0341	ゴッソー	ごっそー	標市第18地割	縄文	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡、陥し穴状遺構、焼土遺構、柱穴状小土坑、土坑、縄文土器（早～晩期）、製塩土器、弥生土器、石器	別記№1-⑩10、平成6年度・12年度・27年度本発掘調査
21	IF58-1006	たけのこ	たけのこ	標市第21地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）、製塩土器	
22	IF58-1205	大丸屋	おおくぼ	標市第19地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前・後・晩期）、石斧、土師器	
23	IF66-0156	ノソウケ金山	のそうけきんざん	標市第70地割	近世	砂金採取跡	石垣	
24	IF66-0300	小雫生館（チチッコ）	こがようだて	標市第70地割	中世	城館跡		昭和59年度調査
25	IF67-1131	和屋館	わやだて	標市第71地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡、平場	昭和59年度調査
26	IF67-2146	大谷鉱山	おおやてつざん	標市第73地割	近世	製鉄関連	鉄津	八戸藩大野村鉄山
27	IF69-1094	西ノ館Ⅰ	にしのだていち	標市第8地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	名称変更（令和元年度）
28	IF69-1157	宿戸館	しゅくのへだて	標市第7地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡、平場	昭和59年度調査
29	IF69-2013	西ノ館	にしのだて	標市第7地割	中世	城館跡	土塁、堀跡、平場	昭和59年度調査
30	IF69-2020	西ノ館Ⅱ	にしのだてに	標市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、石器、土偶	名称変更（令和元年度）
31	IF69-2041	上岡谷	かみおかや	標市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
32	IF69-2380	大平	おおだいら	標市第3地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器（早・晩期）、弥生土器	範囲変更（令和元年度）
33	IF69-2393	ホッタリ貝塚	ほったりかいづか	標市第2地割	縄文、古代	貝塚	縄文土器、製塩土器、カキ、ミルクイ、土師器	範囲変更（令和元年度）
34	IF77-0201	細沢鉄山	ほそざわてつざん	標市第74地割	近世	製鉄関連	鉄津	
35	IF77-1027	湯川鉄山	にごりがわてつざん	標市第73地割	近世	製鉄関連	鉄津	
36	IF79-0123	小田の沢鉄山	こだのさわてつざん	標市第3地割	近世	製鉄関連	鉄津	
37	IF79-0351	八木貝塚	やぎかいづか	標市第1地割	縄文	貝塚	縄文土器（晩期）、鹿角	
38	IF79-0373	袖山	そでやま	標市第1地割	縄文、古墳	集落跡	縄文土器（中・後期）、石製模造品（古墳時代）	
39	IF79-1245	長坂Ⅰ	ながさかいち	小子内第1地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）	名称変更（令和元年度）
40	IF79-1358	小子内貝塚	おこないかいづか	小子内第5地割	縄文	貝塚	染付碗器、鉄片、ミルクイ、イシダテ	
41	IF79-2344	黒マッカ貝塚	くろまっかかいづか	有家第2地割	縄文、古代	貝塚	縄文土器（後期）、石器、土師器	
42	IF80-0339	内新口	ちかいおりと	有家第3地割	縄文	集落跡	縄文土器（晩期）、石斧	
43	IF80-0340	上のマッカ	うえのまっか	有家第5地割	縄文、古代 中世、近世	集落跡	竪穴住居跡、竪穴建物跡、陥し穴状遺構、土坑、焼土遺構、炭窯跡（近世）、縄文土器（早～後期）、製塩土器、土師器、石器、古銭	別記№22、範囲変更（平成23年度）、平成27年度・29年度本発掘調査
44	IF80-0353	有家館	うけだて	有家第5地割	中世	城館跡	瓦礫、堀跡（破壊）	昭和59年度調査、範囲変更（平成25年度）

第１表　町内の遺跡一覧（1）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
45	IF99-1153	芦毛渡鉄山	あしげわたりてつざん	中野第7地割	近世	製鉄関連	鉄津	
46	IG80-0056	有家台場	うげたいば	有家第8地割	近世	砲台場跡	土塁	昭和59年度調査
47	IG80-1006	大宮II	おおみやに	中野第2地割	縄文、弥生	散布地	縄文土器（早期） 弥生土器	
48	IG80-1008	大宮I	おおみやいち	中野第2地割	縄文、弥生	集落跡	縄文（早・前・晩期）、石錘、 弥生土器	
49	IG80-1063	長根塚	ながねづか	中野第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
50	IG80-3004	中野狼（船塚・鰐淵狼）	なかのだて	中野第4地割	中世	城館跡	平瓦、瓦器（鍋頃）	昭和59年度調査
51	IG90-0005	鰐淵城	えぞっか	中野第11地割	縄文	集落跡	縄文土器	範囲変更（平成23年度）
52	IG90-0085	藤好沢	ふじよしざわ	中野第7地割	縄文	集落跡	縄文土器（前・晩期）、 石刀	
53	IF38-1072	アイヌ森	あいぬもり	横市第39地割	縄文、弥生 古代	散布地	縄文土器（前～晩期）、 縄文晩期後葉～弥生前期の 土器、石器、土師器	別記番4、浜通遺跡から名称・ 範囲変更（平成23年度）
54	欠番	-	-	-	-	-	-	北ノ沢遺跡登録抹消（範囲・名称変更 のため）
55	IF48-0194	平内II	ひらないさん	横市第34地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、磨石	別記番4、範囲変更（平成23年度）
56	IF48-1025	石倉	いしくら	横市第37地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（後期）、敲石、磨器、 土師器	別記番4、範囲変更（平成23年度）
57	IF48-2023	横割	ひつわり	横市第30地割	縄文	散布地	石棒	
58	IF56-1358	ニサヤドウ	にさっどう	横市第63地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（晩期）、土師器、 支脚	
59	IF57-2323	高取I	たかとりいち	横市第21地割	縄文	散布地	縄文土器	
60	IF57-2279	高取II	たかとりに	横市第21地割	縄文	集落跡	縄文土器（中・晩期）	
61	IF69-0042	戸類家	へるけ	横市第11地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、土偶	
62	IF69-2113	向山	むかいやま	横市第6地割	縄文	散布地	縄文土器	
63	IF68-2337	田ノ沢	たのさわ	横市第7地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）	
64	IF89-0378	向長根	むかいながね	有家第8地割	縄文	散布地	縄文土器	
65	IF48-0017	平内II	ひらないに	横市第43地割	縄文、弥生 近世	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡、屋外炉、 土坑、流状遺構、亀石、溝跡、 焼土遺構、縄文土器（早期中 葉～中期末～後期前葉）、弥 生土器（前期後半） 土製品、石器、石製品、 鉄製品、陶器、銭貨	別記番3～番6、平成11～13年度・ 23～25年度本発掘調査、範囲変更 （平成23年度）
66	IF79-0119	大浜	おおはま	横市第3地割	縄文	集落跡	縄文土器、石器	
67	IF89-1109	館	たて	横市第7地割	縄文	集落跡	縄文土器（中期）	
68	IF56-2350	大沢	おおさわ	横市第66地割	縄文	散布地	縄文土器	平成13年度新規発見
69	IF38-0098	二十一平	にじゅういちたい	横市第41地割	古代	製塩遺跡	製塩土器、土製支脚、 土師器	別記番4、平成15年度新規発見、 範囲変更（平成23年度）
70	IF59-2161	玉川I	たまがわいち	横市第13地割	縄文	散布地	縄文土器（早期）	
71	IF59-2038	玉川II	たまがわに	横市第14地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）	
72	IF89-1126	馬場I	ばばいち	横市第7地割	縄文	散布地	縄文土器	平成16年度新規発見、範囲変更（平 成23年度）、名称変更（令和元年度）
73	IF89-0314	八森	はちもり	有家第3地割	縄文、奈良	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器、 石器、土師器	別記番13、平成16年度新規発見、範 囲変更（平成23年度）、平成28年度 本発掘調査
74	IF86-0118	向田II	むかいだに	大野第20地割	縄文	散布地	縄文土器	
75	IF86-0137	向田	むかいだ	大野第23地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	
76	IF86-0144	向田I	むかいだいち	大野第20地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石器	
77	IF87-1062	明戸坂	あけどだて	大野第29地割	中世	城館跡	平瓦、土器、鞴跡、平場	昭和59年度調査
78	IF87-2100	萩の渡	はぎのわたり	大野第30地割	近世	製鉄関連	鉄津	
79	IF87-2366	沢山館（鰐淵館）	さわやまだて	大野第49地割	中世	城館跡	鞴跡、平瓦	昭和59年度調査
80	IF88-2284	牛転ばし林館	うしころばしばやしだて	大野第55地割	中世	城館跡	鞴跡、平場	昭和59年度調査
81	IF96-0272	たてひら館	たてひらやかた	大野第13地割	中世	城館跡	郭跡、鞴跡、平場	昭和59年度調査
82	IF96-0387	長根	ながね	大野第72地割	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）、石器	
83	IF96-1280	鰐淵森館	えぞもりだて	大野第10地割	中世	城館跡	郭跡、鞴跡、平場	昭和59年度調査
84	IF96-2238	横岸沢II	よこぎしざわに	大野第4地割	縄文	散布地	石器、壺	
85	IF96-2249	横岸沢I	よこぎしざわいち	大野第5地割	縄文	散布地	壺、石器	
86	IF96-2316	大野館	おおのだて	大野第5地割	中世	城館跡	平場	昭和59年度調査
87	IF97-0012	ひともっこ館	ひともっこだて	大野第69地割	中世	城館跡	平瓦、鞴跡、平場、竪穴	昭和59年度調査
88	IF97-2055	金平沢	かねがさわ	大野第39地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）	
89	IF98-1299	阿子木館	あこぎだて	阿子木第4地割	中世	城館跡	平瓦、鞴跡、竪穴	昭和59年度調査
90	JF07-0168	高森II	たかもりに	大野第57地割	縄文	散布地	縄文土器	
91	JF07-2061	上水沢I	かみみずさわいち	水沢第5地割	縄文	散布地	縄文土器	

第１表　町内の遺跡一覧（2）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
92	JF07-2188	上水沢Ⅱ	かみみずさわに	水沢第7地割	縄文、弥生	集落跡	竪穴住居跡、住居状遺構、土坑、柱穴状遺構、焼土遺構、掘立土器、縄文土器（早～後期）、弥生土器、土製品、石器、鉄製品、銅滓（流水滴状）、アスファルト塊、陶磁器（近・現代）	第2章2、平成12年度本発掘調査
93	JF07-2196	上水沢Ⅱ	かみみずさわさん	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
94	JF07-2204	高森Ⅰ	たかもりいち	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
95	JF07-2272	上水沢Ⅳ	かみみずさわよん	水沢第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
96	JF07-2275	上水沢Ⅴ（船尾前）	かみみずさわご	水沢第7地割	中世	城館跡	平鍬	昭和59年度調査
97	JF07-2288	下水沢Ⅰ	しもみずさわいち	水沢第8地割	縄文	散布地	縄文土器	剥片
98	JF07-2294	上水沢Ⅵ	かみみずさわろく	水沢第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
99	JF08-0067	堺内	つつみない	大野第57地割	縄文	散布地	縄文土器	
100	JF08-0129	日当Ⅰ	ひなたいち	大野第57地割	古代	散布地	土師器	
101	JF08-0186	下帯島Ⅰ	しもたいしまいち	帯島第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
102	JF08-0221	日当Ⅱ	ひなたに	阿子木第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
103	JF08-0225	阿子木	あこぎ	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
104	JF08-1108	下帯島Ⅱ	しもたいしまに	帯島第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
105	JF08-1156	船尾前Ⅰ	えぞだていち	帯島第5地割	中世	城館跡	平鍬、瓦器	昭和59年度調査
106	JF08-1199	上帯島Ⅰ	かみたいしまいち	帯島第8地割	縄文	散布地	縄文土器	
107	JF08-1225	二ツ屋	ふたつや	阿子木第18地割	縄文	散布地	縄文土器	
108	JF08-1254	下帯島Ⅱ	しもたいしまさん	阿子木第18地割	古代	散布地	土師器	
109	JF08-1272	下帯島Ⅳ	しもたいしまよん	帯島第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
110	JF08-1375	二ツ屋内	ふたつやなかい	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
111	JF08-1398	長塚森Ⅰ	ちょうづかもりいち	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
112	JF08-2059	高森Ⅱ	たかもりさん	帯島第4地割	縄文	散布地	縄文土器	
113	JF08-2073	大渡Ⅳ	おおわたりよん	帯島第1地割	縄文	散布地	縄文土器	
114	JF08-2081	大渡Ⅴ（船尾前）	おおわたりご	帯島第1地割	中世	城館跡か？	平鍬、瓦器	昭和59年度調査
115	JF08-2111	船尾前	えぞだて	帯島第4地割	中世	城館跡	平鍬、瓦器	昭和59年度調査
116	JF08-2117	関口Ⅰ	せきぐちいち	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
117	JF08-2127	関口Ⅱ	せきぐちに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
118	JF08-2148	上帯島Ⅱ	かみたいしまに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
119	JF08-2194	上帯島Ⅲ	かみたいしまさん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
120	JF08-2211	上帯島Ⅳ	かみたいしまよん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
121	JF08-2269	弥栄Ⅰ	いやさかいち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
122	JF08-2287	弥栄Ⅲ	いやさかさん	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
123	JF08-2298	弥栄Ⅳ	いやさかよん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
124	JF08-2301	弥栄Ⅴ	いやさかご	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
125	JF08-2304	弥栄Ⅵ	いやさかろく	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
126	JF08-2318	長塚森Ⅱ	ちょうづかもりに	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、歯	
127	JF08-2322	弥栄Ⅶ	いやさかなな	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
128	JF08-2353	弥栄Ⅷ	いやさかはち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
129	JF08-2357	弥栄Ⅸ	いやさかきゅう	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
130	JF08-2371	弥栄Ⅹ	いやさかじゅう	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
131	JF08-2373	弥栄Ⅺ	いやさかじゅういち	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
132	JF08-2380	弥栄Ⅻ	いやさかじゅうに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
133	JF08-1022	長塚森Ⅲ	ちょうづかもりさん	阿子木第12地割	縄文	散布地	石鏃	
134	JF08-1051	長塚森Ⅳ	ちょうづかもりよん	阿子木第12地割	縄文	散布地	縄文土器	
135	JF08-2071	弥栄Ⅲ	いやさかに	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
136	JF17-0140	上水沢Ⅶ	かみみずさわなな	水沢第3地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
137	JF17-0218	下水沢Ⅱ	しもみずさわに	水沢第9地割	縄文	散布地	縄文土器	
138	JF17-0296	金間部Ⅰ	かなまぶいち	水沢第12地割	近世	製鉄関連	鞴の羽口、鉄滓	
139	JF17-0297	金間部Ⅱ	かなまぶに	水沢第12地割	縄文、古代、近世	散布地	縄文土器、土師器、寛永通宝	
140	JF17-0337	大渡Ⅰ	おおわたりいち	水沢第10地割	縄文	散布地	縄文土器	
141	JF17-0339	大渡Ⅱ	おおわたりに	水沢第10地割	縄文	散布地	縄文土器	
142	JF17-1022	生平Ⅰ	おいたいらいち	水沢第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
143	JF17-1024	生平Ⅱ	おいたいらに	水沢第2地割	縄文	散布地	縄文土器	

第１表　町内の遺跡一覧（3）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
144	JF37-2003	青葉畑Ⅱ	あおなばたに	水沢第14地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	
145	JF37-2027	青葉畑	あおなばた	水沢第13地割	縄文	散布地	縄文土器、石器	
146	JF38-0002	大渡第	おおわたりさん	帯島第2地割	縄文	散布地	縄文土器	
147	JF38-0003	帯島開拓地Ⅰ	たいしまかいたくちいち	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
148	JF38-0108	帯島開拓地Ⅱ	たいしまかいたくちに	弥栄	縄文	散布地	縄文土器	
149	JF38-0116	帯島開拓地Ⅲ	たいしまかいたくちさん	帯島第7地割	縄文	散布地	縄文土器	
150	JF38-1052	太田	おおた	水沢第11地割	縄文	散布地	縄文土器	
151	JF37-1367	塚中山Ⅰ	たいかやまいち	横市第41地割	縄文	散布地	石斧	別記※4、平成23年度新規発見
152	JF36-1042	塚中山Ⅱ	たいかやまに	横市第41地割	縄文	散布地	縄文土器、礫器	別記※4、平成23年度新規発見
153	JF36-2001	角川田Ⅱ	かどかわめに	横市第39地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
154	JF37-2343	田ノ端Ⅰ	たのはたいち	横市第42地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	別記※4、平成23年度新規発見
155	JF37-2356	笹花Ⅰ	ささはないち	横市第43地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
156	JF36-2053	笹花Ⅱ	ささはなに	横市第43地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）	別記※4、平成23年度新規発見
157	JF37-2379	笹花Ⅲ	ささはなさん	横市第43地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
158	JF37-2397	笹花Ⅳ	ささはなよん	横市第43地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石、礫器	別記※4、平成23年度新規発見
159	JF37-2392	伝吉Ⅱ	でんきちに	横市第45地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石鏃	別記※4、平成23年度新規発見
160	JF47-0239	伝吉Ⅲ	でんきちさん	横市第44地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
161	JF47-0238	伝吉Ⅳ	でんきちよん	横市第44地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
162	JF47-0216	伝吉Ⅴ	でんきちご	横市第44地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
163	JF47-0345	北ノ沢Ⅰ	きたのさわいち	横市第45地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、石鏃、削掻器、石斧、敲石、剥片	別記※4、平成23年度新規発見、範囲変更（平成25年度）、平成29年度本発掘調査
164	JF47-0333	北ノ沢Ⅱ	きたのさわに	横市第45地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、土師器	別記※4、平成23年度新規発見
165	JF47-0258	北ノ沢Ⅲ	きたのさわさん	横市第45地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
166	JF47-0390	北ノ沢Ⅳ	きたのさわよん	横市第45地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前期）、土師器	別記※4、平成23年度新規発見
167	JF47-0344	北ノ沢Ⅴ	きたのさわご	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
168	JF47-0341	北ノ沢Ⅵ	きたのさわろく	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
169	JF47-0257	北ノ沢Ⅶ	きたのさわなな	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
170	JF47-0299	北ノ沢Ⅷ	きたのさわはち	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
171	JF47-1250	北ノ沢Ⅸ	きたのさわきゅう	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
172	JF47-1138	北ノ沢Ⅹ	きたのさわじゅう	横市第45地割	不明	製鉄関連	鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
173	JF36-2192	北平内Ⅰ	きたひらないいち	横市第38地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、礫器	別記※4、平成23年度新規発見
174	JF46-0127	北平内Ⅱ	きたひらないに	横市第38地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、土師器	別記※4、平成23年度新規発見
175	JF46-0123	北平内Ⅲ	きたひらないさん	横市第38地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
176	JF46-0121	北平内Ⅳ	きたひらないよん	横市第38地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、剥片	別記※4、平成23年度新規発見
177	JF46-0110	北平内Ⅴ	きたひらないご	横市第38地割	縄文、弥生	散布地	縄文土器（後・晩期）、縄文晩期後葉～弥生前期の土器	別記※4、平成23年度新規発見
178	JF46-0143	北平内Ⅵ	きたひらないろく	横市第38地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石	別記※4、平成23年度新規発見
179	JF46-0158	浜平内	はまひらない	横市第36地割	縄文	散布地	縄文土器（早～晩期）、石斧、敲石	別記※4、平成23年度新規発見
180	JF46-0174	平内Ⅳ	ひらないよん	横市第35地割	縄文、古代	散布地	縄文土器（前期）、石斧、敲石、土師器、須恵器	別記※4、平成23年度新規発見
181	JF46-0197	平内Ⅴ	ひらないご	横市第35地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石斧、礫器	別記※4、平成23年度新規発見
182	JF46-1200	南平内Ⅰ	みなみひらないいち	横市第33地割	縄文	散布地	縄文土器（晩期）、製塩土器	別記※4、平成23年度新規発見
183	JF46-1119	南平内Ⅱ	みなみひらないに	横市第32地割	縄文	散布地	縄文土器、剥片石器	別記※4、平成23年度新規発見
184	JF46-1126	南平内Ⅲ	みなみひらないさん	横市第32地割	縄文	散布地	縄文土器、剥片	別記※4、平成23年度新規発見
185	JF46-0041	西平内Ⅰ	にしひらないいち	横市第37地割	縄文、弥生	集落跡	竪穴住居跡、竪穴状遺構、掘立柱建物跡、掘っ立て状遺構、土坑、焼土遺構、炉跡、埋設土器、柱穴、配石遺構、集石遺構、整地層、縄文土器（早・前・後期）、弥生土器（後期）、石器、土製品、石製品	別記※4・※8・※12・※18、平成23年度新規発見、平成28年度・29年度本発掘調査、平成28年度ハンドボーリング調査、令和元年度トレンチ調査、範囲変更（平成29年度）
186	JF46-1040	西平内Ⅱ	にしひらないに	横市第37地割	縄文	散布地	縄文土器（前期）、石器	別記※4、平成23年度新規発見
187	JF46-1115	東平内Ⅰ	ひがしひらないいち	横市第34地割	縄文	散布地	縄文土器、石斧、敲石、礫器、剥片	別記※4、平成23年度新規発見
188	JF46-1039	東平内Ⅱ	ひがしひらないに	横市第34地割	縄文	散布地	縄文土器	別記※4、平成23年度新規発見
189	JF46-1080	東平内Ⅲ	ひがしひらないさん	横市第34地割	不明	製鉄関連	羽口、鉄滓	別記※4、平成23年度新規発見
190	JF47-1390	地沢Ⅰ	うばさわいち	横市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（後期）、石鏃、石斧、剥片	別記※4、平成23年度新規発見

第１表　町内の遺跡一覧（4）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
191	FF47-1288	地沢Ⅱ	うばさわに	横市第47地割	縄文、古代	散布地	縄文土器、石斧、土師器	別記❹4、平成23年度新規発見
192	FF47-1360	地沢Ⅲ	うばさわさん	横市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（前・後期）、須恵器、石斧、剥片、古銭	別記❹4、平成23年度新規発見
193	FF47-1342	地沢Ⅳ	うばさわよん	横市第47地割	縄文	散布地	縄文土器（中期）、須恵器、ビニスエスキーニュ、剥片	別記❹4、平成23年度新規発見
194	FF48-1197	南川尻	みなみかわしり	横市第28地割	縄文	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡、土坑、縄文穴状遺構、地土、墓場、縄文土器、石器	別記❹7・❹14、平成25年度新規発見、平成26年度・28年度本発掘調査
195	FF48-2128	サンニヤⅠ	さんにやいち	横市第25地割	縄文	集落跡 狩猟場跡 散布地	竪穴住居跡、縄文穴状遺構、土坑、地土遺構、縄文土器、石器、薄刃土製品	別記❹9・❹14・❹16、平成25年度新規発見、平成27年度・28年度本発掘調査
196	FF58-0288	北鹿糠	きたかぬか	横市第18地割	縄文	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡、縄文穴状遺構、土坑、地土、縄文土器、石器	別記❹15、平成25年度新規発見、平成27年度・28年度本発掘調査
197	FF58-1354	鹿糠浜Ⅱ	かぬかはまに	横市第15地割	縄文、奈良小明	集落跡	竪穴住居跡（縄文・奈良）、土坑、縄文穴状遺構、性格不明遺物集中部、溝跡、縄文土器、石器、土製品、石製品、土師器	別記❹25、平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
198	FF56-1399	鹿糠浜Ⅰ	かぬかはまいち	横市第15地割	縄文、弥生	集落跡	縄文土器、石器	平成25年度新規発見、範囲変更（平成29年度）、平成29年度本発掘調査
199	FF69-1199	宿口	しゅくのへ	横市第6地割	縄文	集落跡	縄文土器、石器	平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
200	FF69-2273	小田ノ沢Ⅰ	こだのさわいち	横市第3地割	縄文	集落跡	竪穴住居跡、土坑、柱穴、縄文土器、石器	別記❹23、平成25年度新規発見、平成28年度本発掘調査、名称変更（令和元年度）
201	FF79-1217	南八木	みなみやぎ	横市第1地割	縄文 古代～中世	製鉄関連 狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑、鉄生産遺構、廃滓場、製鉄遺構、縄文土器、石器、土師器、須刃、鉄滓、羽口、砂鉄、鍛石	別記❹26、平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
202	FF89-1394	下向Ⅰ	しもむかいいち	中野第1地割	縄文、弥生	狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑、縄文土器、弥生土器、石器	別記❹7、平成25年度新規発見、平成26年度本発掘調査、名称変更（令和元年度）
203	FF89-2323	中野城内	なかのじょうない	中野第1地割	縄文	狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑、土器、石器	別記❹17、平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
204	FF89-1322	黒坂	くろさか	有家第9地割	縄文	集落跡	縄文穴状遺構	別記❹8、平成26年度新規発見、平成28年度本発掘調査
205	FF48-2231	サンニヤⅡ	さんにやに	横市第25地割	縄文、古代	集落跡	竪穴住居跡、土坑、縄文穴状遺構、土師器、石器	別記❹8・❹11、平成26年度新規発見、平成26年度・27年度本発掘調査
206	FF58-1333	南鹿糠Ⅰ	みなみかぬかいち	横市第16・17地割	縄文、古墳	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡（縄文・7C）、土坑、縄文穴状遺構、地土遺構、溝状遺構、縄文土器、土師器、土製品、石器、石製品、鉄滓	別記❹8・❹22、平成26年度新規発見、平成26年度・27年度・29年度本発掘調査
207	FF57-0174	別野	たての	横市第53地割	古代	散布地 製鉄関連	製塩土器（古代）、鉄滓	平成27年度新規発見、製鉄関連は時代不明
208	FF59-2021	北玉川Ⅰ	きたたまがわいち	横市第14地割	縄文～近世	集落跡	縄文土器	平成27年度新規発見、平成29年度本発掘調査、名称変更（令和元年度）
209	FF57-2343	田ノ端Ⅱ	たのはたに	横市第42地割	縄文	集落跡	縄文穴状遺構、縄文土器、フレイク	平成25年度新規発見、平成29年度本発掘調査
210	FF58-0245	荒津内	あらつない	横市第20地割	縄文	集落跡 狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑、地土遺構、縄文土器、弥生土器、土師器、石器、動物遺存体（近世～現代）	別記❹28、平成28年度新規発見、平成29年度本発掘調査
211	FF67-2355	松ヶ沢Ⅰ	まつがさわいち	横市第73地割	縄文	散布地	土器、石器	平成28年度新規発見
212	FF58-2312	鹿糠浜Ⅱ	かぬかはまさん	横市第15地割	縄文	散布地	縄文穴状遺構	平成28年度新規発見
213	FF79-0012	続石	つづくいし	横市第4地割	縄文、古代	集落跡 狩猟場跡	竪穴住居跡、縄文穴状遺構、土坑、性格不明遺構、縄文土器（早・後期）、土製品、石器、製塩土器、土製支脚	別記❹20、平成29年度新規発見、令和元年度本発掘調査、範囲変更（令和元年度）
214	FF96-2265	新田	しんでん	大野第14地割	近世	製鉄関連	鉄滓	平成29年度新規発見
215	FF95-2335	一本松向Ⅰ	いっぽんまつむかいち	大野第15地割	縄文、古代 近世	散布地 製鉄関連	縄文土器、土師器、鉄滓	平成29年度新規発見、製鉄関連は時代不明
216	FF96-2053	一本松向Ⅱ	いっぽんまつむかいに	大野第15地割	縄文、近世	散布地 製鉄関連	縄文土器、鉄滓	平成29年度新規発見、製鉄関連は時代不明
217	FF58-1170	板橋Ⅰ	いたばしいち	横市第21地割	縄文	狩猟場跡	縄文穴状遺構	平成29年度新規発見、名称変更（令和元年度）
218	FF48-2250	サンニヤⅢ	さんにやさん	横市第25地割	縄文	狩猟場跡	縄文穴状遺構、縄文土器、石器	別記❹14、平成29年度本発掘調査
219	FF67-2265	松ヶ沢Ⅱ	まつがさわに	横市第74地割	不明	製鉄関連	鉄滓	平成29年度新規発見
220	FF99-0251	下向Ⅱ	しもむかいに	中野第1地割	縄文	狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑	別記❹19、平成30年度新規発見、令和元年度本発掘調査、範囲変更（令和元年度）
221	FF58-0234	板橋Ⅱ	いたばしに	横市第21地割	縄文	集落跡	竪穴住居跡、縄文穴状遺構、土坑、縄文土器（早・後期）、土製品、石器、石製品、陶磁器	平成30年度新規発見、平成30年度・令和元年度本発掘調査
222	FF99-0384	尺沢	しゃくざわ	中野第7地割	田石器、縄文 弥生	散布地 狩猟場跡	縄文穴状遺構、土坑、ピット、縄文土器（早・後期）、石器（剥離文）、石製品	令和元年度新規発見、令和元年度本発掘調査

第１表　町内の遺跡一覧（5）

No.	遺跡コード	遺跡名	ふりがな	所在地	時代	種別	出土遺構・遺物	備　考
223	D'98-0395	南玉川Ⅰ	みなみたまがわいち	種市第11地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、土坑、不明土坑	令和元年度新規発見、令和元年度本発掘調査
224	D'98-0396	南玉川Ⅱ	みなみたまがわに	種市第11地割	縄文、弥生	狩猟場跡・散布地	陥し穴状遺構、土坑、不明土坑、縄文土器、弥生土器、石器	令和元年度新規発見
225	D'98-1386	西戸駅家Ⅰ	にしへるいちい	種市第10地割	縄文	散布地	土坑、縄文土器、弥生土器	令和元年度新規発見
226	D'98-2394	馬場Ⅱ	ばばに	種市第7地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、土坑	令和元年度新規発見
227	D'98-1045	南玉川Ⅲ	みなみたまがわさん	種市第11地割	奈良、平安	集落跡	竪穴住居跡、木炭業跡、土師器	令和元年度新規発見、令和元年度本発掘調査
228	D'78-1351	小田ノ沢Ⅱ	こだのさわに	種市第3地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構、縄文土器	令和元年度新規発見、令和元年度本発掘調査
229	D'58-1139	板橋Ⅱ	いたばしさん	種市第21地割	縄文	散布地	溝状土坑、縄文土器、石器	令和元年度新規発見
230	D'78-2369	長根Ⅱ	ながさかに	小子内第7地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構	令和元年度新規発見
231	D'98-0347	南玉川Ⅳ	みなみたまがわよん	種市第11地割	縄文	散布地	土坑	令和元年度新規発見
232	D'58-2380	北玉川Ⅱ	きたたまがわに	種市第14地割	縄文	狩猟場跡	陥し穴状遺構	令和元年度新規発見
233	D'58-0105	板橋Ⅳ	いたばしよん	種市第21地割	縄文	散布地	土坑	令和元年度新規発見

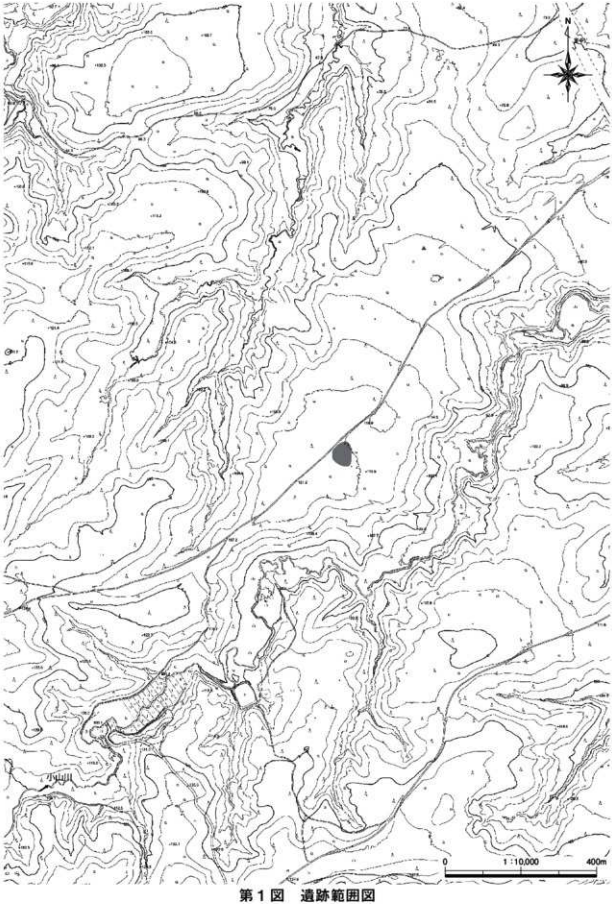
第１表　町内の遺跡一覧（6）

〈備考欄の文献について、それぞれ次のように略した〉

「※１」（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1996・2001『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第238集・第357集
「※２」岩手県久慈地方振興局久慈農村整備事務所（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
2002『上水沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第391集
「※３」岩手県種市町教育委員会　2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』種市町埋蔵文化財調査報告書第１集
「※４」岩手県種市町教育委員会　2005『種市町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』種市町埋蔵文化財調査報告書第２集
「※５」岩手県洋野町教育委員会　2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第１集
「※６」岩手県洋野町教育委員会　2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第２集
「※７」（公財）岩手県文化振興事業団　2015『平成26年度発掘調査報告書 南川尻遺跡　下向遺跡　沼袋Ⅱ遺跡
沼袋Ⅲ遺跡　八幡沖遺跡　ほか調査概報（39遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第647集
「※８」岩手県教育委員会　平成28年３月『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度　復興関係）』
岩手県文化財調査報告書第146集
「※９」（公財）岩手県文化振興事業団　2016『平成27年度発掘調査報告書 サンニヤ遺跡　房の沢Ⅳ遺跡
白石遺跡　ほか調査概報（33遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第661集
「※10」岩手県洋野町教育委員会　2017『ゴッソー遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第３集
「※11」岩手県教育委員会　平成29年３月『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成27年度　復興関係）』
岩手県文化財調査報告書第149集
「※12」国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2017『西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
「※13」（公財）岩手県文化振興事業団　2017『平成28年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ遺跡　栃洞Ⅳ遺跡　八森遺跡
ほか調査概報（28遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第676集
「※14」岩手県教育委員会　平成30年３月『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成28年度　復興関係）』
岩手県文化財調査報告書第152集
「※15」国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2018『北鹿糠遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第686集
「※16」国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2018『サンニヤⅠ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
「※17」（公財）岩手県文化振興事業団　2018『平成29年度発掘調査報告書 岩洞湖Ⅰ・Ⅱ遺跡　和野新堅神社遺跡
北野Ⅺ遺跡　木戸場遺跡　中野城内遺跡　沼里遺跡　根井沢穴田Ⅳ遺跡　耳取Ⅰ遺跡　千厩城遺跡
ほか調査概報（23遺跡）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第692集
「※18」岩手県洋野町教育委員会　2019『西平内Ⅰ遺跡ハンドボーリング調査報告書』
洋野町埋蔵文化財調査報告書第４集
「※19」岩手県洋野町教育委員会　2019『下向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第５集
「※20」岩手県洋野町教育委員会　2019『続石遺跡発掘調査報告書』洋野町埋蔵文化財調査報告書第６集

「※ 21」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『南鹿嶽Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 697 集
「※ 22」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『上のマッカ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 698 集
「※ 23」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『小田ノ沢遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 699 集
「※ 24」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『荒津内遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 701 集
「※ 25」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『鹿嶽浜Ⅱ遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 702 集
「※ 26」 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所・（公財）岩手県文化振興事業団
2019『南八木遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 703 集

南玉川Ⅰ遺跡



第１図　遺跡範囲図

Ⅰ．遺跡の概要

南玉川Ⅰ遺跡は、洋野町種市第11地割地内、JR八戸線種市駅から南へ4.5km、宿戸漁港から西へ2.8km、北緯40°22′13″、東経141°43′15″を中心に位置する。未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、風力発電事業に伴い実施された埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の北東700mの位置には昭和32年に慶応義塾大学江坂輝彌氏によって発掘調査が行われた戸類家遺跡が所在する。

Ⅱ．調査の概要

調査は、試掘調査で検出した遺構確認面まで重機で掘削し、鋤簾等を用い人力で精査して遺構確認を行った。

検出した遺構は、半截や土層観察用のベルトを設定し掘り下げ、堆積状況を観察・記録した後に完掘を行い、平面図及び断面図等を作成した。土層の注記は『標準土色帖』に即して記録した。平面図は、測量CADシステムTREND－ONE（トレンド・ワン）を基本に、簡易遣り方を併用しながら行った。

記録写真は、35㎜デジタル一眼レフカメラを用いて撮影し、調査終了後、無人航空機（ドローン）による空中撮影を行い、調査区上空からの全景写真や部分写真、俯瞰撮影を行った。

調査対象地内に6箇所（A～E区）の小規模な調査区（15m×15m）を設定し、検出した遺構の状況により一部拡張して調査を行った。

調査区内に設定したグリッドは、平面直角座標第X系（世界測地系）に合わせて4m単位で設定した。

グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点

N7-1　X＝41509.994　Y＝75333.183　H＝120.395m

N7-2　X＝41438.327　Y＝75402.927　H＝119.699m

N7-3　X＝41389.507　Y＝75352.760　H＝120.824m

N7-4　X＝41461.173　Y＝75283.017　H＝120.847m

A区（面積：225㎡　検出遺構：SK1、SK2、TP1）

7A-1　X＝41491.261　Y＝75340.462

7A-2　X＝41480.314　Y＝75350.717

7A-3　X＝41470.059　Y＝75339.770

7A-4　X＝41481.006　Y＝75329.515

B区（面積：265㎡　検出遺構：TP2、TP3、SP1、SP2）

7B-1　X＝41474.537　Y＝75332.997

7B-2　X＝41463.590　Y＝75343.252

7B-3　X＝41453.335　Y＝75332.305

7B-4　X＝41464.282　Y＝75322.050

C区（面積：225㎡　検出遺構：なし）

7C-1　X＝41467.086　Y＝75369.212

7C-2　X＝41456.139　Y＝75379.467

7C-3　X＝41445.884　Y＝75368.520

7C-4　X＝41456.831　Y＝75358.265

D 区（面積：225㎡　検出遺構：TP4）

7D-1　X = 41446.351　Y = 75380.477

7D-2　X = 41435.404　Y = 75390.732

7D-3　X = 41425.149　Y = 75379.785

7D-4　X = 41436.096　Y = 75369.530

E 区（面積：225㎡　検出遺構：なし）

7E-1　X = 41419.439　Y = 75351.624

7E-2　X = 41408.492　Y = 75361.879

7E-3　X = 41398.237　Y = 75350.933

7E-4　X = 41409.184　Y = 75340.678

Ⅲ．遺跡の土層序

南玉川Ⅰ遺跡は、標高 120m 前後の段丘頂部に位置する。段丘面は、九戸段丘に相当すると考えられる。九戸段丘は、下位から九戸火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層が堆積する（松山　2013・2019）。

本調査の基本層序用の深掘トレンチでは、高館火山灰相当層の上部まで確認した。八戸火山灰層の上位層（Ⅰ～Ⅲ層）は、下位から上位に向かって、南部浮石層（To － Nb）、中振浮石層（To － Cu）、十和田 b 降下火山灰層（To － b）、十和田 a 降下火山灰層（To － a）、白頭山－苫小牧火山灰層（B － Tm）が狭在するが、本遺跡では、それぞれの火山灰層は確認されなかった（第２図　写真図版 6）。

今回の調査で土層観察した結果の概要を記す。

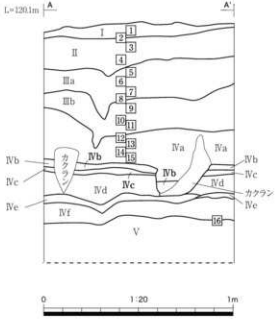
Ⅰ層は表土下部で腐食に富む黒褐色シルトである。粘性はなく、草本根を多量に含み締りがない。

Ⅱ層は黒褐色シルトで、黄褐色土（10YR5/6）を斑状に少量含む。草本根も少量含み締りが弱い。

Ⅲ層は黒褐色シルトが主体だが、Ⅳ層上部（Ⅳ a 層）のブロックを斑状に含む。黒褐色土Ⅱ層への漸移層で、Ⅲ a 層とⅢ b 層の２層に細分した。下位のⅢ b 層は、Ⅳ a 層ブロックを多量に含む。

Ⅳ層は八戸火山灰層で、下位から上位にⅠ～Ⅵ層に区分されている（大池・松山ほか　1970）。本調査区の深掘トレンチでも明瞭に６層に分層されたが、ここでは便宜上、上位から下位にⅣ a 層～Ⅳ f 層と付した。なお、調査区の北側 A・B 区付近では、C 区深掘トレンチよりはⅡ・Ⅲ・Ⅳ層は薄く、Ⅳ層も明瞭に細分出来ない。

Ⅴ層はにぶい橙色（7.5YR6/4）を基調とした粘土質ロームである。上部の八戸火山灰降下直前の風化体部分に厚さ数㎜の層状で部分的に炭化物が峡在する。この層は、高館火山灰層と考えられるが、多量の広域風成塵（中国大陸砂漠砂～黄砂）を含む風成層からなる粘土層という指摘がある（雁沢ほか　1994）。



深掘土層序(C区南東壁)

Ⅰ　10YR2/2黒褐色土　粘性弱　締りなし
Ⅱ　10YR2/3黒褐色土　粘性弱　締り弱
Ⅲa 10YR3/2黒褐色土　やや粘性あり　締り弱
Ⅲb 10YR3/3暗褐色土　やや粘性あり　締り弱
Ⅳa 2.5Y6/6明黄褐色土　やや粘性あり　締り強
Ⅳb 2.5Y6/4にぶい黄褐色土　粘性なし　締り強
Ⅳc 10YR6/6明黄褐色土　粘性なし　締り強
Ⅳd 10YR6/4にぶい黄橙色土　やや粘性あり　締り強
Ⅳe 10YR6/6明黄褐色土
Ⅳf 2.5Y6/6明黄褐色土　粘性弱　締り強
Ⅴ　7.5YR6/4にぶい橙色土　粘性強　締りあり

※1~16: 土壌サンプル採取位置

第２図　深掘土層序

Ⅳ．深掘土層のテフラ分析

株式会社パレオ・ラボ

はじめに

岩手県洋野町の南玉川Ⅰ遺跡の発掘調査では、C 区の深掘南東壁面でテフラが混在する土層が検出された。ここでは、これらの堆積物について、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、屈折率測定を行い、テフラ分析を行った。

1．試料と方法

分析試料は、C 区の深掘南東壁面から採取された堆積物である。地表下 5 ～ 80 cmにかけて、上から順に試料 No.1 ～ 15 までを 5 cmごとに採取した。地表から深度 35 cm（試料 No.1 ～ 6）は黒色～暗褐色の土壌である。深度 35 ～ 65 cm（試料 No.7 ～ 12）は黒色～暗褐色の土壌で黄色～褐色の軽石混じり粘土ブロックが散在する。深度 65 ～ 75 cm（試料 No.13 ～ 14）は褐色の粘土で軽石が混じる。深度 75 ～ 105 cmは明黄褐色の軽石混じり粘土と軽石の混ざらない粘土の互層である。試料 15 点のうち、テフラと思われる堆積物を含む層準を 8 点選んで分析対象とした（第 1 表）。

各試料を、以下の方法で処理した。

分析 No.	試料 No.	位置	特徴
1	7	C 区深掘南東壁面	黒褐色（7.5YR 2/2）、黄色粒子（1 mm）混じり土壌
2	8		暗褐色（7.5YR 3/4）、黄色粒子（1 mm）混じり土
3	9		暗褐色（7.5YR 3/4）、黄色粒子（1 mm）混じり土
4	10		暗褐色（7.5YR 3/4）、褐色塊混じり土
5	11		暗褐色（7.5YR 3/3）、黄色粒子（1 mm）混じり土
6	12		暗褐色（7.5YR 3/3）、黄色粒子（1 mm）混じり土
7	13		褐色（7.5YR 4/6）、軽石（3 mm）混じり凝灰質粘土
8	15		明黄褐色（7.5YR 5/6）、軽石（2 mm）混じり凝灰質粘土

第 1 表　テフラ試料の詳細

湿潤重量 6.58 ～ 21.12g を秤量した後、1 ϕ（0.5mm）、2 ϕ（0.25mm）、3 ϕ（0.125mm）、4 ϕ（0.063mm）、4.5 ϕ（0.044 mm）の 5 枚の篩を重ね、湿式篩分けをした。

4 ϕ 篩残渣（分析 No.7、No.8）について、重液（テトラブロモエタン、比重 2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。軽鉱物は、水浸の簡易プレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従って、バブル型平板状（b1）、バブル型Y字状（b2）、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型フレーク状（c1）、急冷破砕型塊状（c2）に分類した。

重鉱物は、封入剤レークサイドセメントを用いてプレパラートを作製し、斜方輝石（Opx）、単斜輝石（Cpx）、角閃石（Ho）、磁鉄鉱（Mg）を同定・計数した。

分析 No.1、No.3、No.6、No.8 の 4 ϕ 篩残渣中の火山ガラスは、横山ほか（1986）に従って温度変化型屈折率測定装置（株式会社古澤地質製、MAIOT）を用いて屈折率測定を行った。

2．結果

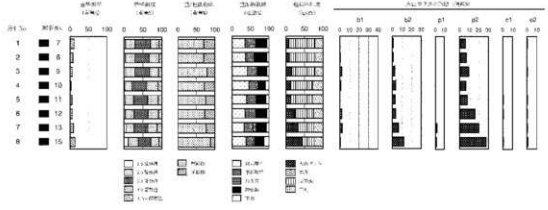
以下に、試料の特徴等、鉱物組成、火山ガラスの形態分類、火山ガラスの屈折率測定結果について述べる。

［C 区深掘南東壁面（分析 No.1 ～ 8）］

試料は、分析 No.1（試料 No.7）黒褐色（7.5YR 2/2）の黄色粒子（1mm）混じり土壌、分析 No.2 ～ 6（試料 No.8 ～ 12）が暗褐色（7.5YR 3/3 ～ 3/4）の黄色粒子（1mm）または褐色塊混じり土壌、分析 No.7（試料 No.13）が褐色（7.5YR 4/6）の軽石（3mm）混じり凝灰質粘土、分析 No.8（試料 No.15）が明黄褐色（7.5YR 5/6）の軽石（2

分析No.	処理重量 (g)	砂粒分の粒度組成（重量g）					軽・重鉱物組成（重量g）	
		1φ	2φ	3φ	4φ	4.5φ	軽鉱物	重鉱物
1	15.39	0.13	0.93	1.47	0.83	0.26	0.16	0.07
2	11.36	0.09	0.62	0.93	0.64	0.19	0.16	0.07
3	9.50	0.09	0.47	0.75	0.49	0.16	0.15	0.04
4	6.58	0.02	0.19	0.40	0.30	0.10	0.15	0.06
5	9.00	0.05	0.37	0.62	0.47	0.16	0.12	0.04
6	10.17	0.07	0.44	0.69	0.52	0.16	0.18	0.07
7	16.84	0.17	0.60	1.06	0.74	0.35	0.19	0.06
8	21.12	0.49	1.18	1.44	0.95	0.31	0.22	0.03

第２表　テフラ試料の湿式篩分け・重液分離の結果



第３図　深掘南東壁面試料の鉱物組成・火山ガラスの分布図

分類群 / 分析No.	石英 (Qz)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	火山ガラス							軽鉱物合計	重鉱物						重鉱物の合計
				バブル（泡）型		軽石型		急冷破砕型		ガラス合計		斜方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ho)	磁鉄鉱 (Mg)	カンラン石 (Ol)	不明 (Opq)	
				平板状 (bt)	Y字状 (bt2)	繊維状 (pt)	スポンジ状 (gl)	フレーク状 (ct1)	塊状 (ct2)									
1	2	175	54	1	2		15		1	19	250	89	70	1	76		14	250
2	1	174	53	2	2		18			22	250	91	59	2	85		13	250
3	2	156	55	5	6		24		2	37	250	104	67	3	63		13	250
4		150	71	3	9	1	16			29	250	116	59	4	46		25	250
5	1	147	69	1	8		21	2	1	33	250	99	64	4	61		22	250
6	2	126	65	5	9		40	2	1	57	250	90	70	5	69		14	250
7		107	62	7	16	5	50	1	2	81	250	82	60	20	71	1	16	250
8	1	80	60	2	30	3	69	2	3	109	250	96	47	11	64		32	250

第３表　４φ篩残渣中の鉱物組成

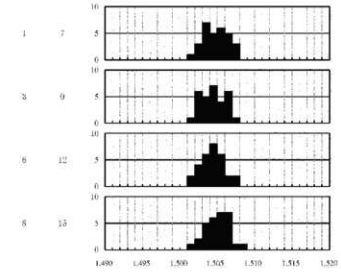
mm）混じり凝灰質粘土である（第１表）。

粒度組成は、いずれの試料も３φ篩残渣が最も多い。重液分離では軽鉱物の割合が高い（第２表）。

軽鉱物は、いずれの試料も火山ガラスと長石（Pl）を多く含み、石英を少量伴う。

火山ガラスは、全体的に軽石型スポンジ状ガラスが特徴的で、バブル型火山ガラスなどを伴う。火山ガラスは、分析 No.8（試料 No.15）において最も多く、上位に向かって減少する。また、重鉱物は、いずれの試料も斜方輝石（Opx）が多く、単斜輝石（Cpx）や磁鉄鉱（Mg）も多く、角閃石（Ho）を少量含む（第３表、第３図）。

火山ガラスの屈折率測定では、分析 No.1（試料 No.7）が範囲 1.5013-1.5078（平均 1.5048）、分析 No.3（試料 No.9）が範囲 1.5019-1.5077（平均 1.5046）、分析 No.6（試料 No.12）が範囲 1.5017-1.5075（平均 1.5044）、分析 No.8（試料 No.15）が範囲 1.5018-1.5086（平均 1.5050）であった（第４図）。



範囲(range)	平均(mean)	個数
1.5013 - 1.5078	1.5048	30
1.5019 - 1.5077	1.5046	30
1.5017 - 1.5075	1.5044	30
1.5018 - 1.5086	1.5050	30

第 4 図　各試料の火山ガラスの屈折率測定結果

3. テフラの対比

C 区の深掘南東壁から採取された試料についてテフラ分析した。

No.8（試料 No.15）の火山ガラスの屈折率が 1.5018-1.5086 であるため、十和田八戸テフラ（To-H、To-HP）と同定される。これより上位層に含まれる火山ガラスは、火山ガラスの含有率が減少するものの、軽石型ガラスとバブル型ガラスからなり、火山ガラスの屈折率がほぼ同じ範囲を示すことから、同様に十和田八戸テフラ（To-H、To-HP）と同定される。

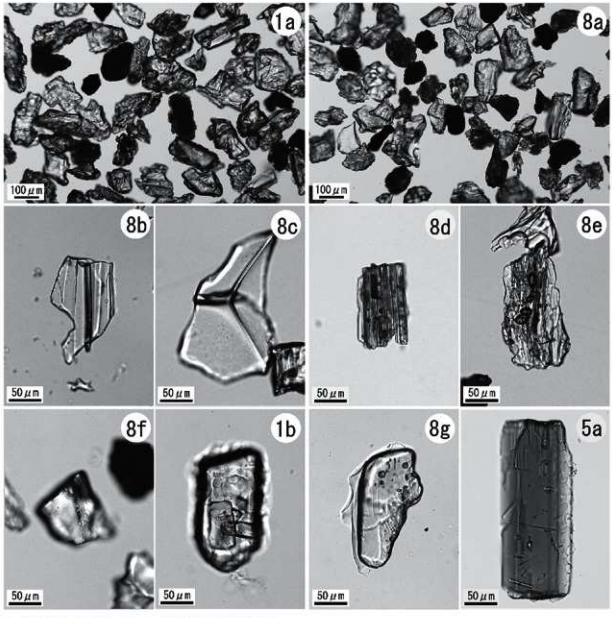
十和田八戸テフラ（To-HP）は、十和田火山から 15ka に噴出し、東側 350km 以上に分布する降下軽石（pfa）および降下火山灰（afa）からなる。同様に、十和田八戸テフラ（To-H）は、同心円状に 50km 範囲に分布する火砕流堆積物（pfl）および降下火山灰（afa）からなる。斜方輝石と単斜輝石、角閃石と少量の石英を含み、火山ガラスの屈折率が範囲 1.502-1.509、斜方輝石の屈折率が範囲 1.705-1.708 である（町田・新井　2003）。谷口・川口（2001）では、千曳浮石層が十和田八戸テフラ（To-H, To-HP）の上位のテフラ層とされているが、町田・新井（2003）では、十和田八戸火砕流堆積物（To-H）、降下層部分は十和田八戸降下テフラ（To-HP）に対比されているが、その区分での位置付けは明確でない（谷口・川口　2001）。

〈引用文献〉

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．336p．東京大学出版会

谷口康浩・川口　潤（2001）長者久保・神子柴文化期における土器出現の ^{14}C 年代・較正暦年代．第四紀研究．40．485-498．

横山卓雄・檀原　徹・山下　透（1986）温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定．第四紀研究．25．21-30



1a. 分析 No.1（試料 No.7） 8a. 分析 No.8（試料 No.15）

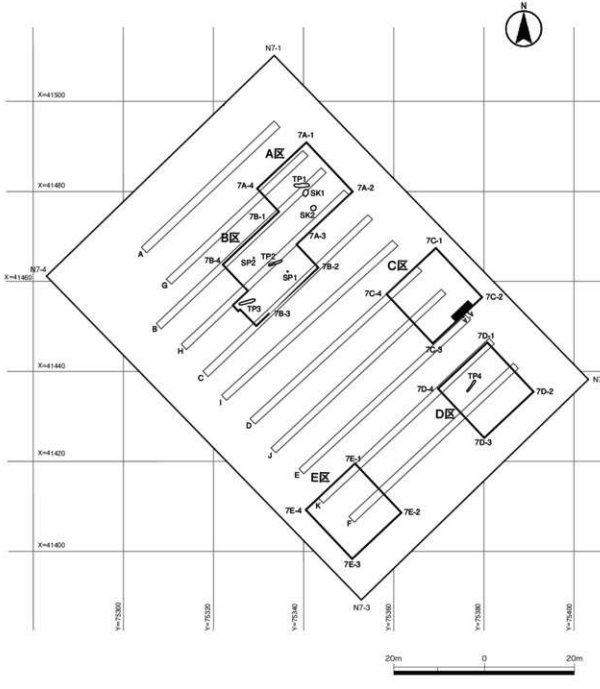
8b. バブル型平板状ガラス（分析 No.8） 8c. バブル型Y字状ガラス（分析 No.8）

8d. 軽石型繊維状ガラス（分析 No.8） 8e. 軽石型スポンジ状ガラス（分析 No.8）

8f. 急冷破砕型フレーク状ガラス（分析 No.8） 1b. 斜方輝石（分析 No.1）

8g. 単斜輝石（分析 No.8） 5a. 角閃石（分析 No.5）

写真図版１　４φ残渣中のテフラ粒子の偏光顕微鏡写真


N
N7-1
X=41500
X=41480
X=41460
X=41440
X=41420
X=41400
N7-4
N7-2
N7-3
A区
B区
C区
D区
E区
7A-1
7A-2
7A-3
7A-4
7B-1
7B-2
7B-3
7B-4
7C-1
7C-2
7C-3
7C-4
7D-1
7D-2
7D-3
7D-4
7E-1
7E-2
7E-3
7E-4
TP1
TP2
TP3
TP4
SK1
SK2
SP1
SP2
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
Y=75300
Y=75320
Y=75340
Y=75360
Y=75380
Y=75400
20m
0
20m

第５図　遺構配置図

Ⅴ．調査の成果

1．検出された遺構について

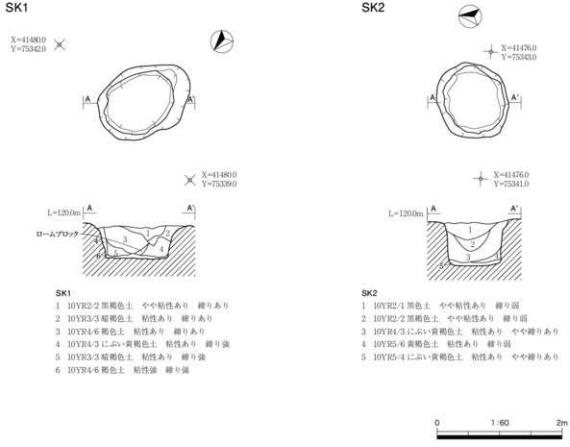
(1) 土坑

SK1 土坑（第６図　写真図版６）

Ａ区のほぼ中央部に位置する。試掘調査のＢトレンチ南東壁際、基本層序第Ⅳ層上面で、半円形の黒色プランを検出した。TP1 と隣接する。平面形は、底部が104cm × 90cmとほぼ円形だが、開口部は長径 152cm × 短径108cmと楕円形を呈する。底面はほぼ平坦で水平である。壁は外傾して立ち上がり、断面形は、逆台形を呈する。堆積土は暗褐色土を基調とし、６層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

SK2 土坑（第６図　写真図版６）

Ａ区の中央部より南東側に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、円形の黒色プランを検出した。SK1 と隣接する。平面形は、開口部が 120cm × 114cm、底部 90cm × 84cmの円形を呈する。底面はほぼ平坦で水平である。壁はほぼ直線的に立ち上がり、断面形は箱型を呈する。堆積土は暗褐色土を基調とし、５層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。



第６図　土坑 SK1・SK2

(2) 溝状土坑

TP1 溝状土坑（第７図　写真図版７）

Ａ区のほぼ中央部に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、黒色の溝状プランがSK1と隣接して検出した。平面形は細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、Ｎ－90°－Ｅを示す。規模は開口部で、長軸346cm、短軸90cm、底部長軸358cm、最深部で118cmを測る。長軸両側の壁は若干オーバーハングして立ち上がるが、西側の壁の坑底部はやや袋状に抉りこまれている。短軸の断面形状は、Ｙ字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、９層に分層される。上位の１層と下位の９層が黒褐色土で、自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

TP2 溝状土坑（第７図　写真図版７）

Ｂ区のほぼ中央部に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、Ｎ－70°－Ｅを示す。規模は開口部で、長軸322cm、短軸56cm、底部長軸368cm、最深部で108cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸の断面形状は、Ｙ字状を呈し、底面はほぼ平坦であるが、東側から西側に約10°傾斜している。西壁側が最も深く、東壁側が74cmと浅い。堆積土は褐色土を基調とし、８層に分層される。上位の１層と下位の７層が黒褐色土で、自然堆積の様相を示す。西側上場の一部が風倒木痕・木根等で撹乱されている。遺構内からの出土遺物はない。

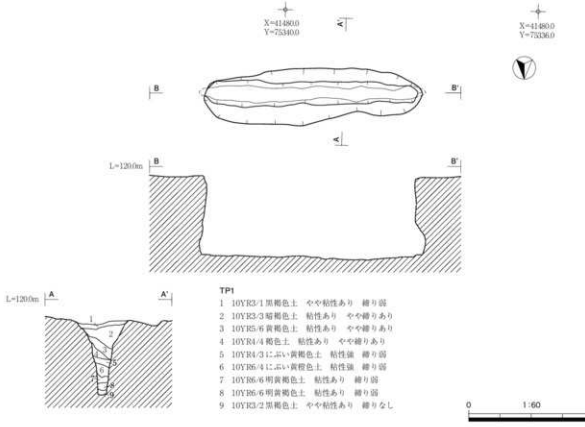
TP3 溝状土坑（第８図　写真図版７）

Ｂ区のほぼ南端に位置する。南西壁際から基本層序第Ⅳ層上面で、黒色の溝状プランを検出し、約40㎡拡張して調査した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はほぼ東西方向に沿っており、Ｎ－72°－Ｅを示す。規模は開口部で、長軸362cm、短軸68cm、底部長軸414cm、最深部で148cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸の断面形状は、Ｙ字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、９層に分層される。上位の１層と下位の８層が黒色土及び黒褐色土である。自然堆積の様相を示す。調査区内から検出した遺構は、基本層序第Ⅳ層上面で確認されているが、壁際から検出した為、本来の掘り込み面が確認出来た。基本層序Ⅲ層中で構築されていると考えられる。その為、本土坑だけ深くなっているが、いずれの土坑も同様と考えられる。遺構内からの出土遺物はない。

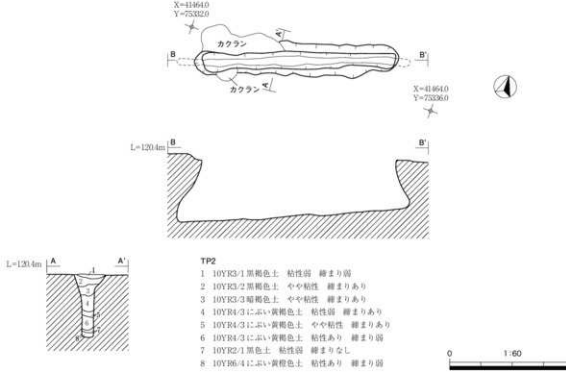
TP4 溝状土坑（第８図　写真図版８）

Ｄ区の中央部からやや北西よりに位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はやや南北方向に沿っており、Ｎ－35°－Ｅを示す。ほかの３基の溝状土坑とは主軸方向が異なる。規模は、長軸313cm、短軸52cm、底部長軸340cm、最深部で82cmを測る。長軸両側の壁はオーバーハングして立ち上がる。短軸の断面形状はＹ字状を呈し、底面はほぼ平坦で水平である。堆積土は褐色土を基調とし、６層に分層される。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。

TP1

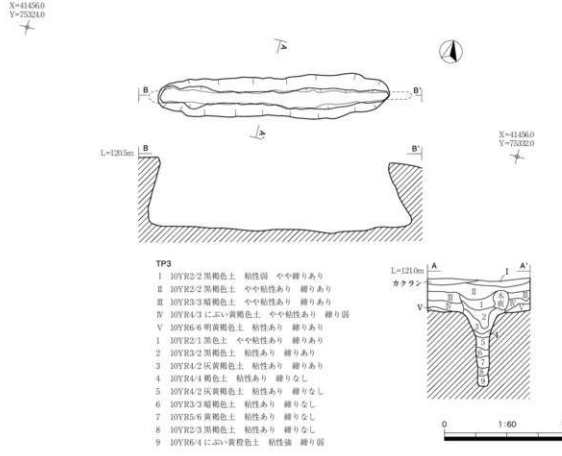


TP2



第７図　溝状土坑 TP1・TP2

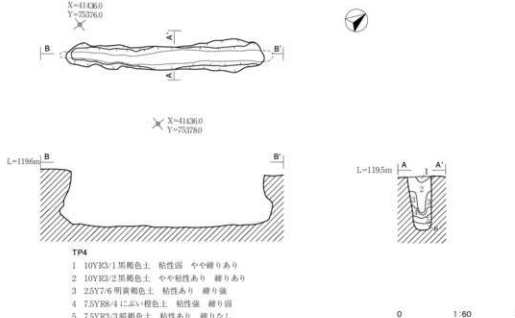
TP3



TP3

Ⅰ　10YR2/2 黒褐色土　粘性弱　やや締りあり
Ⅱ　10YR2/2 黒褐色土　やや粘性あり　締りあり
Ⅲ　10YR3/3 暗褐色土　やや粘性あり　締りあり
Ⅳ　10YR4/3 にぶい黄褐色土　やや粘性あり　締り弱
Ⅴ　10YR6/6 明黄褐色土　粘性あり　締りあり
1　10YR2/1 黒色土　やや粘性あり　締りあり
2　10YR3/2 黒褐色土　粘性あり　締りあり
3　10YR4/2 灰黄褐色土　粘性あり　締りあり
4　10YR4/4 褐色土　粘性あり　締りなし
5　10YR4/2 灰黄褐色土　粘性あり　締りなし
6　10YR3/3 暗褐色土　粘性あり　締りなし
7　10YR5/6 黄褐色土　粘性あり　締りなし
8　10YR2/3 黒褐色土　粘性あり　締りなし
9　10YR6/4 にぶい黄橙色土　粘性強　締り弱

TP4



TP4

1　10YR3/1 黒褐色土　粘性弱　やや締りあり
2　10YR3/2 黒褐色土　やや粘性あり　締りあり
3　2.5Y7/6 明黄褐色土　粘性あり　締り強
4　7.5YR8/4 にぶい橙色土　粘性強　締り弱
5　7.5YR3/3 暗褐色土　粘性あり　締りなし
6　7.5YR5/4 にぶい褐色土　粘性あり

第８図　溝状土坑 TP3・TP4

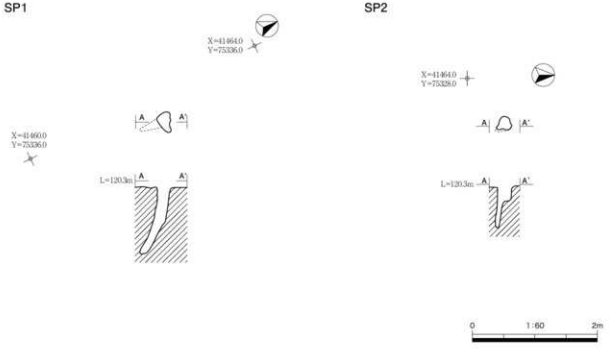
(3) ピット

SP 1 ピット（第 9 図　写真図版 8）

B 区の中央部よりやや東側に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、不整円形の黒色プランを検出した。平面形は、開口部が 32cm × 24cmでやや三角形状を呈する。柱穴状の壁面が約 5°の傾斜で 60cm掘りこまれ、そこからさらに 18°の傾斜で 48cm掘りこまれている。深さは開口部から 114cmと深く、土層観察は困難であった。堆積土は暗褐色土を基調とする。TP2 の南東側に隣接する。遺構内からの出土遺物はない。

SP2 ピット（第 9 図　写真図版 8）

B 区の中央部よりやや西側に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、円形の黒色プランを検出した。平面形は、開口部が 24cm × 20cmで不整円形を呈する。柱穴状の壁面が約 7°の傾斜で 64cm掘りこまれている。深さは開口部から 72cmと深く、土層観察は困難であった。堆積土は暗褐色土を基調とする。遺構内からの出土遺物はない。



第 9 図　ピット SP1・SP2

2. まとめ

溝状土坑いわゆる陥し穴状遺構が確認されたことから、当遺跡は狩猟場跡であることが明らかとなった。

溝状土坑は4基検出され、そのうちTP1・TP2・TP3の3基は、長軸が東－西方向を示し、ほぼ直線状に並列している。それぞれの平面形態・長軸断面・短軸断面も類似し、開口部長軸はTP1（346cm）、TP2（322cm）、TP3（362cm）、開口部短軸は、TP1（90cm）、TP2（56cm）、TP3（68cm）と、規模も概ね類似している。深さ（最深部）は、TP1が118cm、TP2が108cm、TP3が148cmであった。TP3の深さは、調査区の南西壁際で遺構端部が確認され、遺構開口部付近までの堆積状況を観察することができた。TP1・TP2の本来の深さはTP3と近似するものと考えられる。

〈引用・参考文献〉

大池 昭二・松山 力・七崎 修　1970　八戸平原地区地質調査報告書　東北農政局

雁沢 好博　1994　西南北海道－東北地方北部に広がる後期更新世の広域風成塵　地質学雑誌

雁沢 好博ほか　1995　石英粒子の天然熱蛍光を利用したテフラ起源と風成塵起源堆積物の識別法
－上北平野、天狗岱面上の中期更新世の段丘堆積物を例として－　地質学雑誌

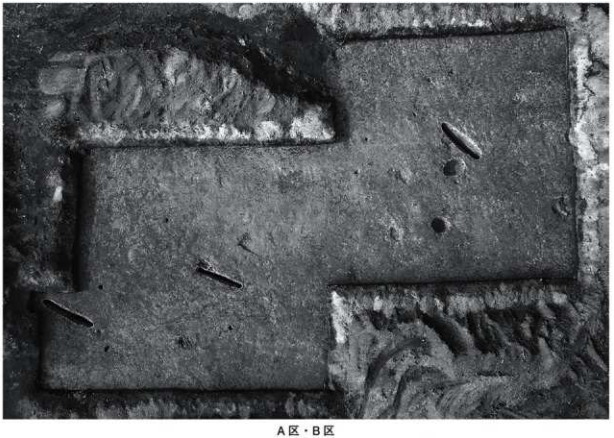
松山 力　2013「Ⅳ．平内Ⅱ遺跡の地学的環境」「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
洋野町教育委員会埋蔵文化財調査報告書第1集

遠　景

近　景

写真図版２　遺跡遠景・近景

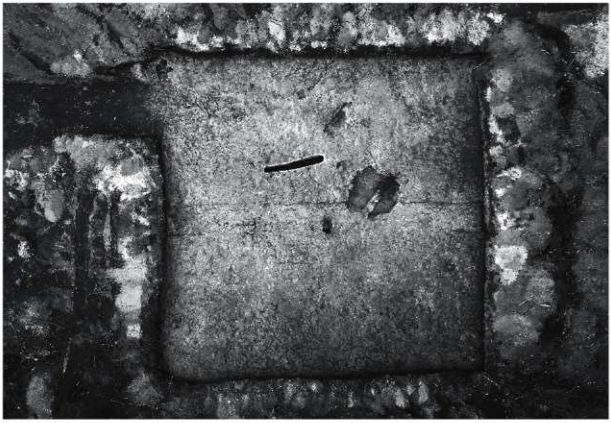
写真図版３　調査区全景（1）



A区・B区

C区・D区

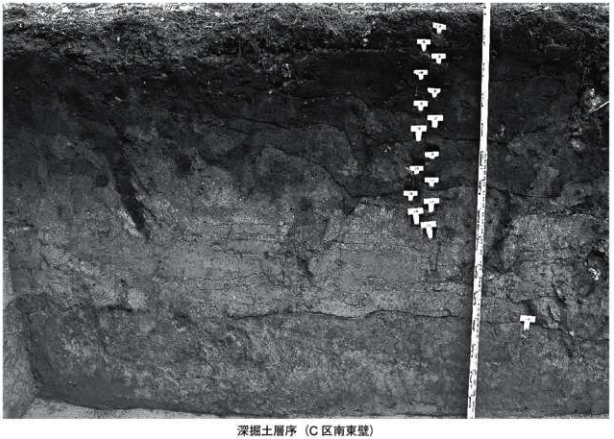
写真図版４　調査区全景（2）



D 区

調査前近景

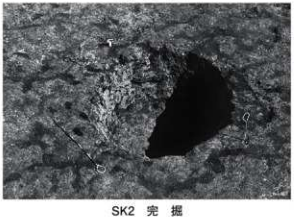
写真図版 5　調査区全景 (3)



深掘土層序（C 区南東壁）

SK1　完　掘

SK1　断　面



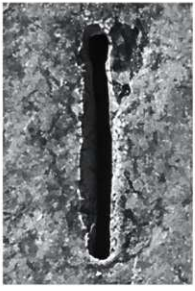
SK2　完　掘

SK2　断　面

写真図版 6　深掘土層序・土坑 SK1・SK2

TP1
完　掘

TP1
断　面



TP2
完　掘

TP2
断　面

TP3
完　掘

TP3
断　面

写真図版 7　溝状土坑 TP1 ～ TP3

TP4
完　掘

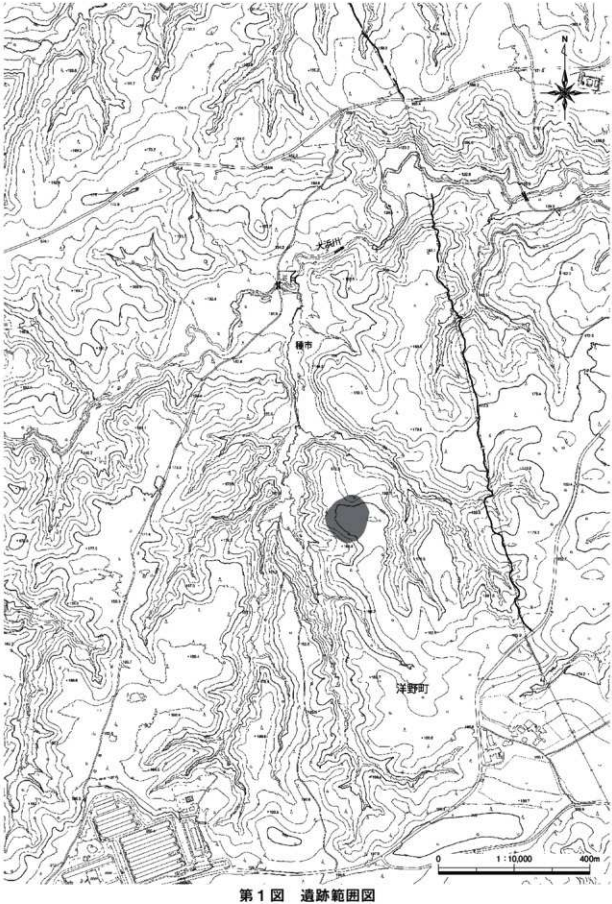
TP4
断　面

SP1　完　掘

SP2　完　掘

写真図版 8　溝状土坑 TP4・ピット SP1・SP2

小田ノ沢Ⅱ遺跡



第１図　遺跡範囲図

Ⅰ．遺跡の概要

小田ノ沢Ⅱ遺跡は、洋野町種市第３地割地内、JR 八戸線種市駅から南へ 7.8km、八木港から南南西へ 4.5km、北緯 40° 20′ 13″、東経 141° 42′ 52″を中心に位置する。未周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、埋蔵文化財確認試掘調査によって新規に発見された遺跡である。本遺跡の北西 3.6km に小田ノ沢Ⅰ遺跡が所在する。同遺跡は三陸沿岸道路建設に伴う発掘調査が公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターにより行われ、縄文時代前期前葉と後期前葉の竪穴住居跡が発見されている。特に前期前葉の住居跡は 12 軒発見され、当該期の集落跡であることが明らかとなっている。

Ⅱ．調査の概要

調査対象地内に検出した遺構を中心に小規模な調査区（15m × 15m）を設定した。

調査区内に設定したグリッドは、平面直角座標第Ｘ系（世界測地系）に合わせて 4m 単位で設定した。

グリッド設定のために設置した基準点の成果は以下のとおりである。

基準点

N23-1　X = 37870.614　Y = 74868.386　H = 175.594m

N23-2　X = 37796.022　Y = 74934.990　H = 177.033m

N23-3　X = 37749.399　Y = 74882.775　H = 175.216m

N23-4　X = 37823.992　Y = 74816.172　H = 174.859m

調査区（面積：225㎡　検出遺構：TP1）

23A-1　X = 37800.913　Y = 74880.182

23A-2　X = 37800.913　Y = 74895.182

23A-3　X = 37785.913　Y = 74895.182

23A-4　X = 37785.913　Y = 74880.182

Ⅲ．遺跡の土層序

小田ノ沢Ⅱ遺跡は、標高170m前後の段丘頂部に位置する。段丘面は、九戸段丘に相当すると考えられる。

本調査の基本層序用の深掘トレンチは、八戸火山灰層の下位の層まで掘削した。八戸火山灰層の上部層（Ⅰ・Ⅱ層）は、下位から上位に向かって、南部浮石層（To－Nb）、中振浮石層（To－Cu）、十和田ｂ降下火山灰層（To－b）、十和田ａ降下火山灰層（To－a）、白頭山－苫小牧火山灰層（B－Tm）が挟在するが、本遺跡では、それぞれの火山灰層は確認されなかった。（第２図　写真図版４）

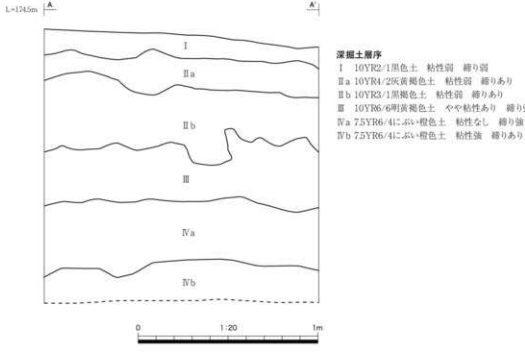
今回の調査で土層観察した結果の概要を記す。

Ⅰ層は表土下部で腐食に富む黒色シルトである。粘性は弱く、草本根を多量に含み締まりは弱い。

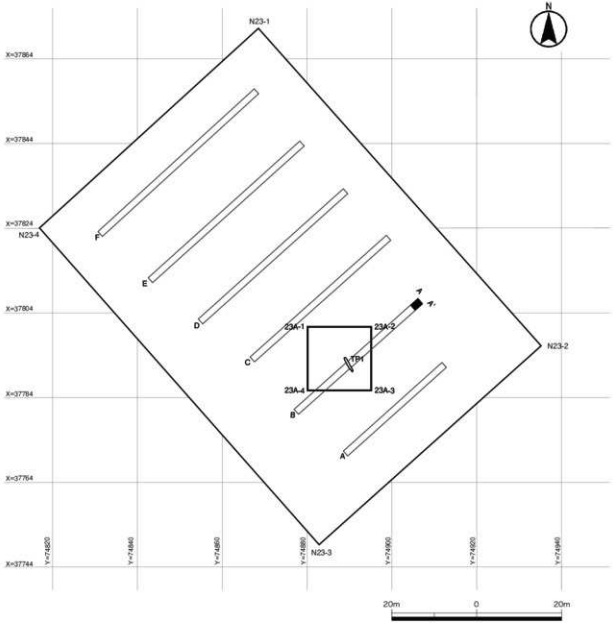
Ⅱａ層は灰黄褐色シルトで、黄褐色土（10YR5/6）を霜降り状にやや多く含み締まりがある。Ⅱｂ層は黒褐色シルトが主体だが、Ⅱａ層への漸移層で、Ⅲ層上部のブロックを斑状に含み締まりがある。Ⅱｂ層下部とⅢ層上部は波状帯を呈している。

Ⅲ層は八戸火山灰層と考えられるが、明瞭に区分（６層）されない。

Ⅳａ層・Ⅳｂ層はにぶい橙色（7.5YR6/4）を基調とした粘土質ロームである。



第２図　深掘土層序


N
N23-1
N23-2
N23-3
N23-4
X=37864
X=37844
X=37824
X=37804
X=37784
X=37764
X=37744
Y=74820
Y=74840
Y=74860
Y=74880
Y=74900
Y=74920
Y=74940
A
A'
B
B'
C
D
E
F
F'
23A-1
23A-2
23A-3
23A-4
TP1
20m
0
20m

第３図　遺構配置図

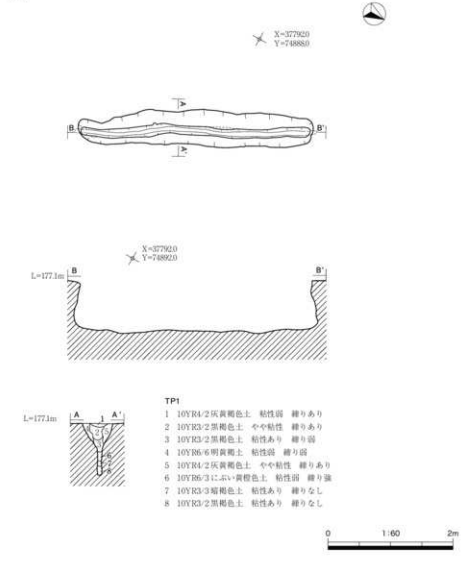
Ⅳ．調査の成果

1．検出された遺構について

溝状土坑

TP1 溝状土坑（第４図　写真図版４）

調査区のほぼ中央部に位置する。基本層序第Ⅳ層上面で、黒色の溝状プランを検出した。平面形は、細長楕円形を呈し、長軸方向はやや南北方向に沿ってＮ－29°－Ｗを示す。規模は、開口部で長軸370cm、短軸54cm、底部長軸382cm、最深部で82cmを測る。長軸両側の壁は若干オーバーハングして立ち上がるが、西側の壁の坑底部はやや袋状に抉りこまれている。短軸の断面形状は、Ｙ字状を呈し、底面はほぼ水平で平坦である。堆積土は褐色土を基調とし、８層に分層される。上位層の２層と下位の８層が黒褐色土である。自然堆積の様相を示す。遺構内からの出土遺物はない。



第４図　溝状土坑 TP1

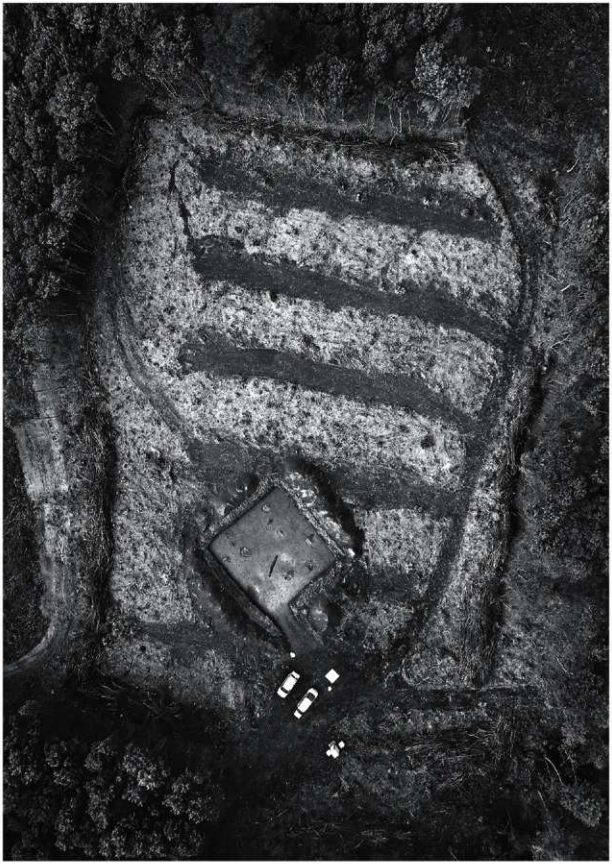
2. まとめ

溝状土坑いわゆる陥し穴状遺構が確認されたことから、当遺跡は狩猟場跡であることが明らかとなった。溝状土坑は１基のみの検出であり、遺構の密度は低いものとみられる。

遠　景

近　景

写真図版１　遺跡遠景・近景



写真図版 2　調査区全景

調査前近景

調査後近景

写真図版３　調査区近景

深掘土層序

TP1
完　掘

TP1
断　面

写真図版４　深掘土層序・溝状土坑 TP1

報告書抄録

ふりがな	みなみたまがわいちいせき・こだのさわにいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書
副書名	風力発電事業に伴う遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	洋野町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 7 集
編著者名	千田政博　田中寿明
編集機関	洋野町教育委員会　株式会社アーキジオ
所在地	〒028-7914　岩手県九戸郡洋野町種市 23-27　TEL 0194-65-2111
発行年月日	2020 年 3 月 10 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
南玉川Ⅰ遺跡	岩手県九戸郡 洋野町種市 第 11 地割字 南玉川 93 番 2	03507	IF68-0395	40° 22′ 13″	141° 43′ 15″	20190924 ～ 20191017	1,125㎡	風力発電事業
小田ノ沢Ⅱ遺跡	岩手県九戸郡 洋野町種市 第 3 地割字 小田沢 81 番	03507	IF78-1351	40° 20′ 13″	141° 42′ 52″	20191018 ～ 20191024	225㎡	風力発電事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南玉川Ⅰ遺跡	狩猟場跡	縄文時代	土坑 溝状土坑 ピット	―	
小田ノ沢Ⅱ遺跡	狩猟場跡	縄文時代	溝状土坑	―	

洋野町埋蔵文化財調査報告書第７集

南玉川Ⅰ遺跡・小田ノ沢Ⅱ遺跡発掘調査報告書

風力発電事業に伴う遺跡発掘調査

印刷　令和２年３月３日
発行　令和２年３月10日

発行　洋野町教育委員会
〒028 － 7914　岩手県九戸郡洋野町種市 23 － 27
TEL（0194）65 － 2111

印刷　今野印刷株式会社
〒984 － 0011　宮城県仙台市若林区六丁の目西町２－ 10
TEL（022）288 － 6123